

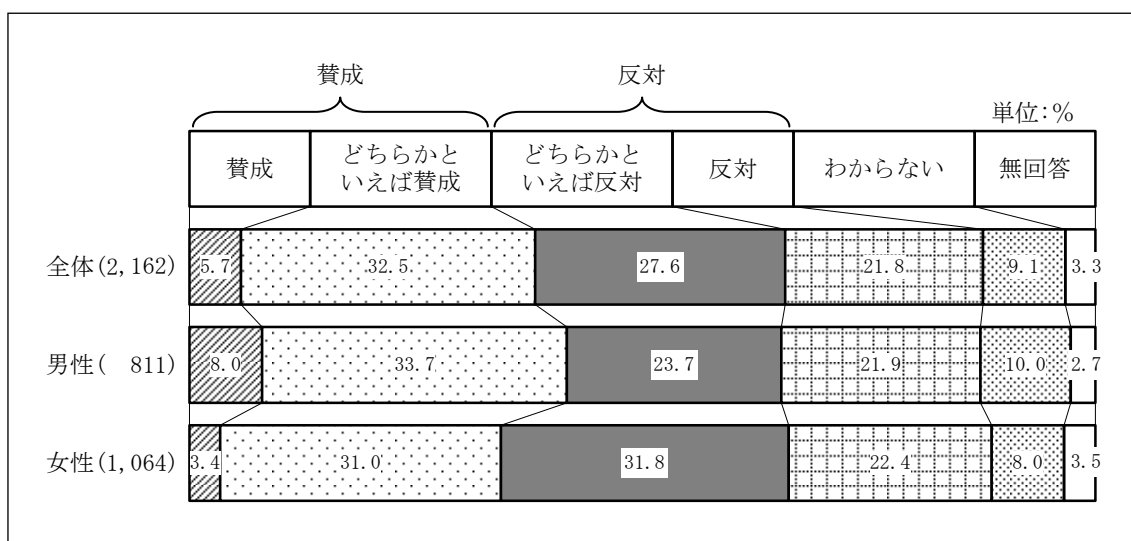
❖ 第3章 調査結果 ❖

第3章 調査結果

I 男女平等に関する意識について

問1 「男は仕事、女は家庭」という男女の役割分担意識

あなたは、「男は仕事、女は家庭」という男女の役割分担の考え方を、どのように思いますか。(〇は1つ)



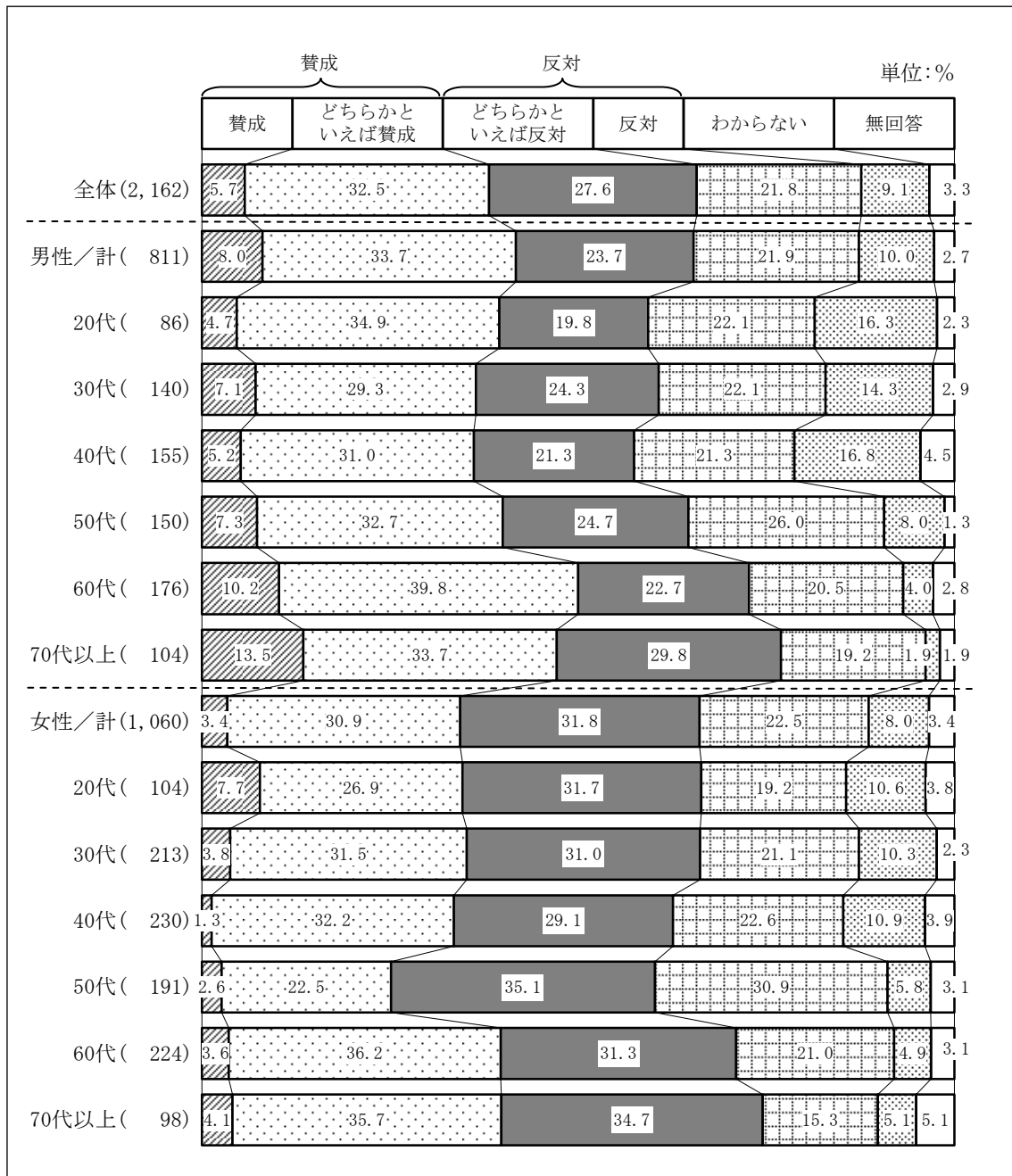
図表9 「男は仕事、女は家庭」という男女の役割分担意識

○全体の傾向

「男は仕事、女は家庭」という男女の役割分担の考え方に“反対（「反対」と「どちらかといえば反対」の合計）”が49.4%、“賛成（「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計）”が38.2%となっており、“反対”が“賛成”を10ポイント以上上回っています。

○男女別の傾向

男性では“反対”（45.6%）と“賛成”（41.7%）がほぼ同じ割合であるのに対し、女性では“反対”が過半数を占めており（“反対”：54.2%、“賛成”：34.4%）、男女の意識に違いが見られます。



図表 10 「男は仕事、女は家庭」という男女の役割分担意識（男女・年代別）

○男女・年代別の傾向

男性の60代のみ“賛成”（50.0%）が“反対”（43.2%）を上回っています。一方、女性はすべての年代で“反対”が過半数を占めており、特に50代では66.0%と多くなっています。

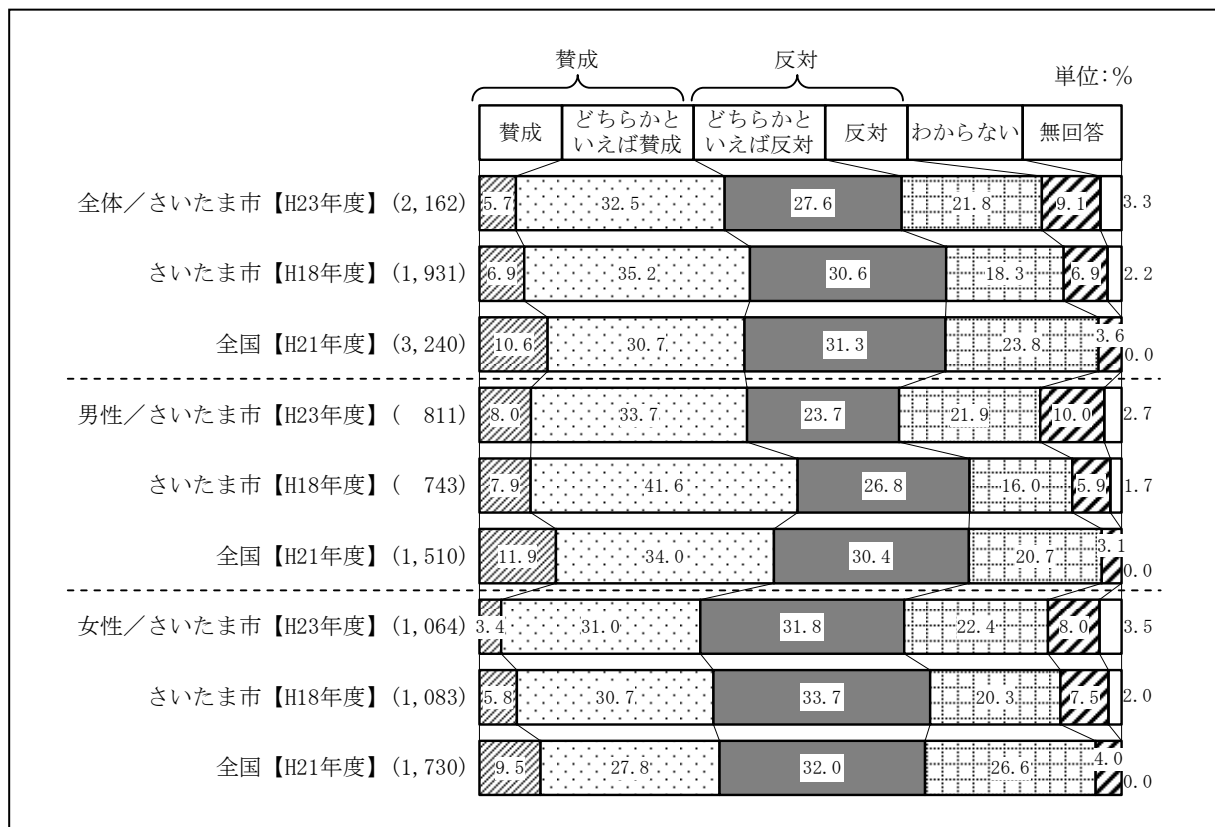
	全体	賛成		反対		わからない	無回答	
		賛成	いど え ち ら か と	いど え ち ら か と	反対			
全体	2,162 100.0	123 5.7	702 32.5	597 27.6	472 21.8	196 9.1	72 3.3	
男女・就業状況別	男性／会社員・団体職員	419 100.0	28 6.7	152 36.3	94 22.4	84 20.0	50 11.9	11 2.6
	自由業・自営業	79 100.0	5 6.3	24 30.4	16 20.3	24 30.4	8 10.1	2 2.5
	パート・アルバイト	42 100.0	4 9.5	11 26.2	12 28.6	11 26.2	4 9.5	-
	公務員・教員	58 100.0	4 6.9	16 27.6	18 31.0	14 24.1	4 6.9	2 3.4
	家事専業	2 100.0	1 50.0	-	-	-	1 50.0	-
	学生	22 100.0	1 4.5	7 31.8	7 31.8	3 13.6	3 13.6	1 4.5
	無職	162 100.0	19 11.7	57 35.2	39 24.1	34 21.0	7 4.3	6 3.7
	その他	24 100.0	3 12.5	5 20.8	6 25.0	6 25.0	4 16.7	-
	女性／会社員・団体職員	186 100.0	6 3.2	43 23.1	67 36.0	49 26.3	17 9.1	4 2.2
	自由業・自営業	61 100.0	3 4.9	17 27.9	19 31.1	19 31.1	2 3.3	1 1.6
	パート・アルバイト	261 100.0	1 0.4	85 32.6	84 32.2	60 23.0	19 7.3	12 4.6
	公務員・教員	49 100.0	4 8.2	5 10.2	13 26.5	22 44.9	4 8.2	1 2.0
	家事専業	367 100.0	17 4.6	129 35.1	120 32.7	57 15.5	33 9.0	11 3.0
	学生	19 100.0	-	4 21.1	4 21.1	6 31.6	3 15.8	2 10.5
	無職	91 100.0	5 5.5	31 34.1	26 28.6	18 19.8	6 6.6	5 5.5
	その他	23 100.0	-	13 56.5	4 17.4	5 21.7	1 4.3	-
	無回答	297 100.0	22 7.4	103 34.7	68 22.9	60 20.2	30 10.1	14 4.7

図表 11 「男は仕事、女は家庭」という男女の役割分担意識（男女・就業状況別）

○男女・就業状況別の傾向

男性の《会社員・団体職員》《無職》では、“賛成”と“反対”がそれぞれ4割強でほぼ同じ割合となっています。一方、男性の《自由業・自営業》《パート・アルバイト》《公務員・教員》では過半数が、女性の《会社員・団体職員》《自由業・自営業》《公務員・教員》では6割以上が“反対”と回答しており、“賛成”を大きく上回っています。

《前回調査、全国調査との比較》



図表 12 「男は仕事、女は家庭」という男女の役割分担意識《前回調査、全国調査との比較》

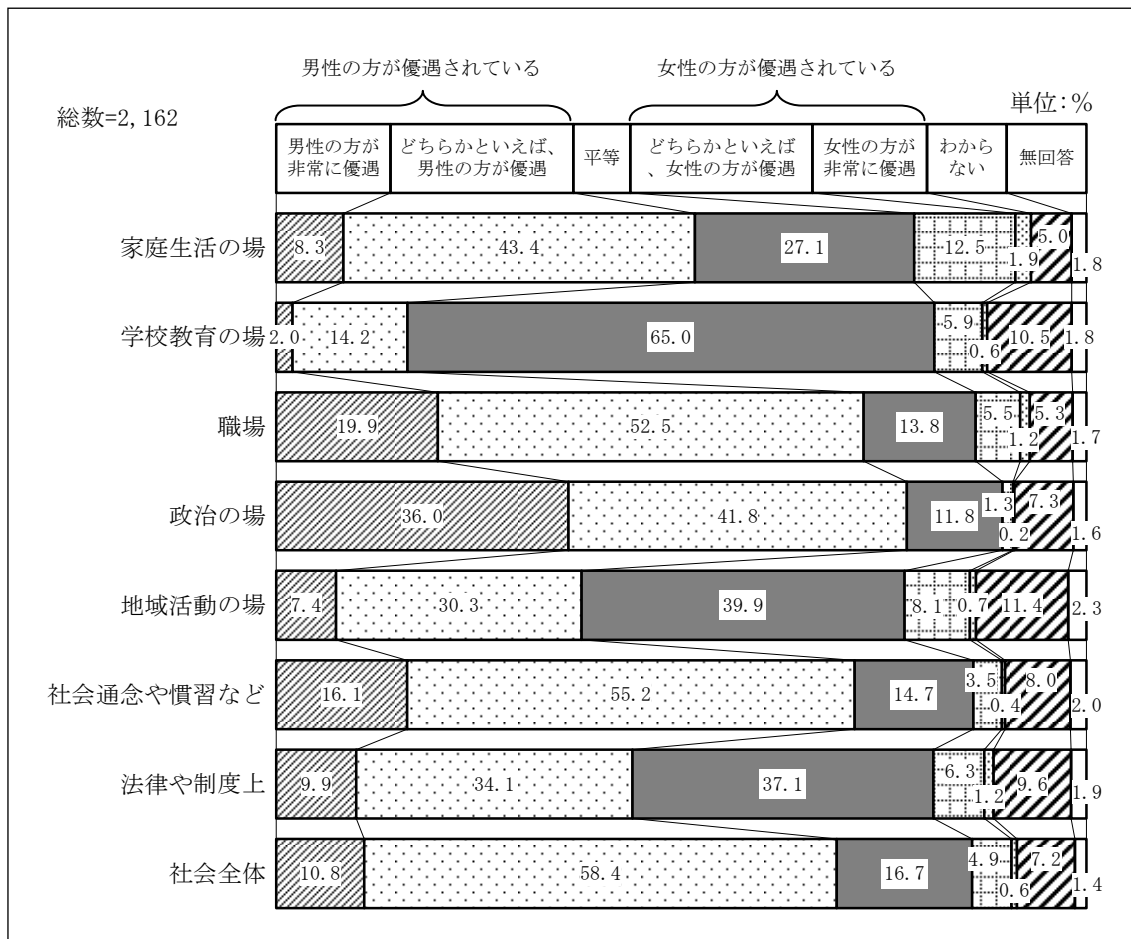
●前回調査、全国調査との比較

前回調査と比較すると、全体及び男性の“賛成”は減少傾向にあるものの、全体、男女ともに“反対”はほぼ変化がありません。

全国調査と比較すると、全体、男女ともに全国調査は“反対”が過半数を占めており、本市調査をそれぞれ5ポイント程度上回っています。

問2 各分野における男女の地位の平等感

あなたは、次にあげる分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。(ア～クのそれぞれについて、あてはまる「1～6」に○を1つ)

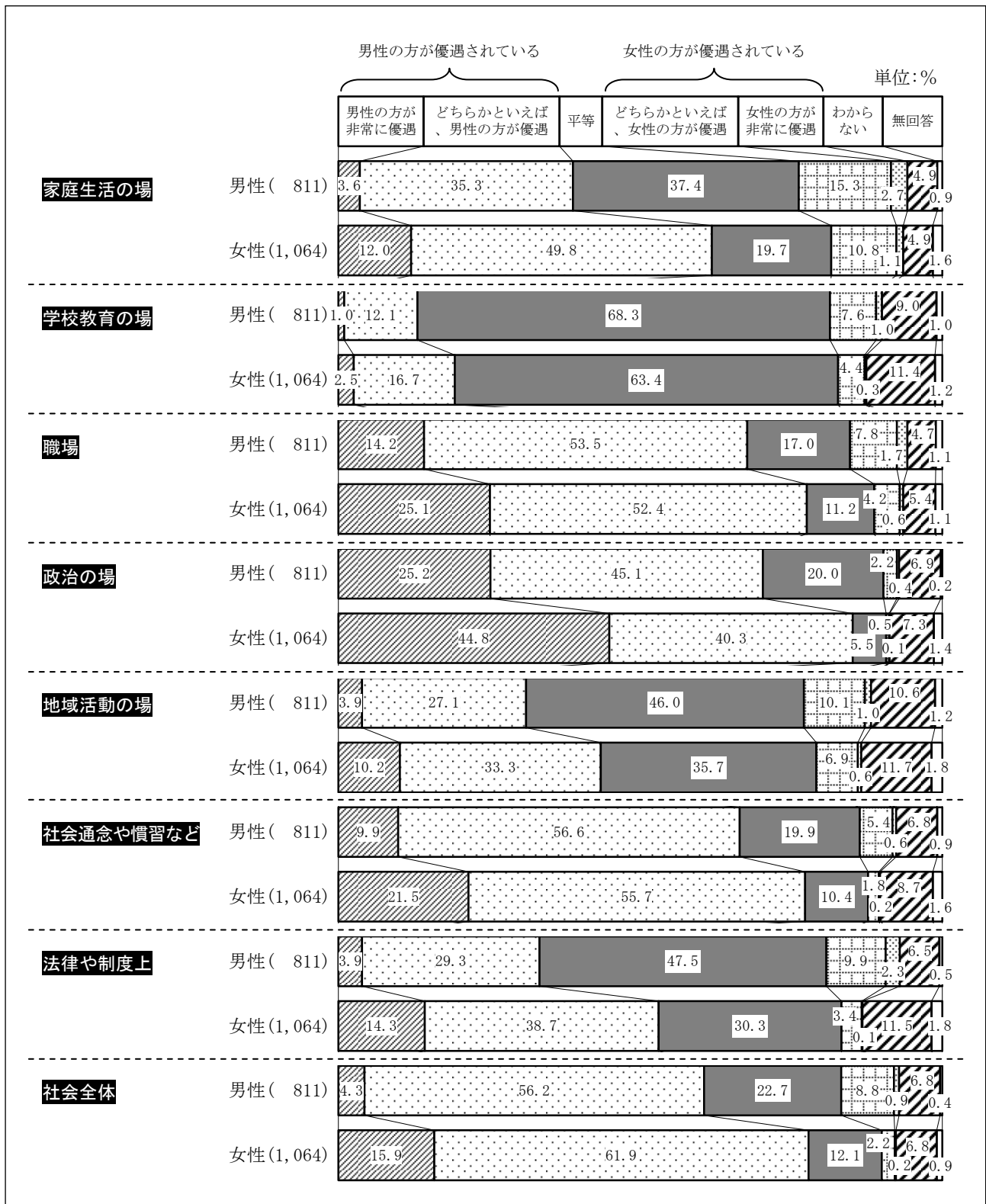


図表 13 各分野における男女の地位の平等感

○全体の傾向

男女の地位が最も「平等」と考えられているのは、『学校教育の場』(65.0%) となっています。

一方、多くの項目で“男性の方が優遇されている(「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば、男性の方が優遇されている」の合計)”という認識が高く、『政治の場』(77.8%)、『職場』(72.4%)、『社会通念や慣習』(71.3%) では特に高い割合となっています。また、『社会全体』においても、“男性の方が優遇されている”(69.2%) の割合が高くなっています。



図表 14 各分野における男女の地位の平等感（男女別）

○男女別の傾向

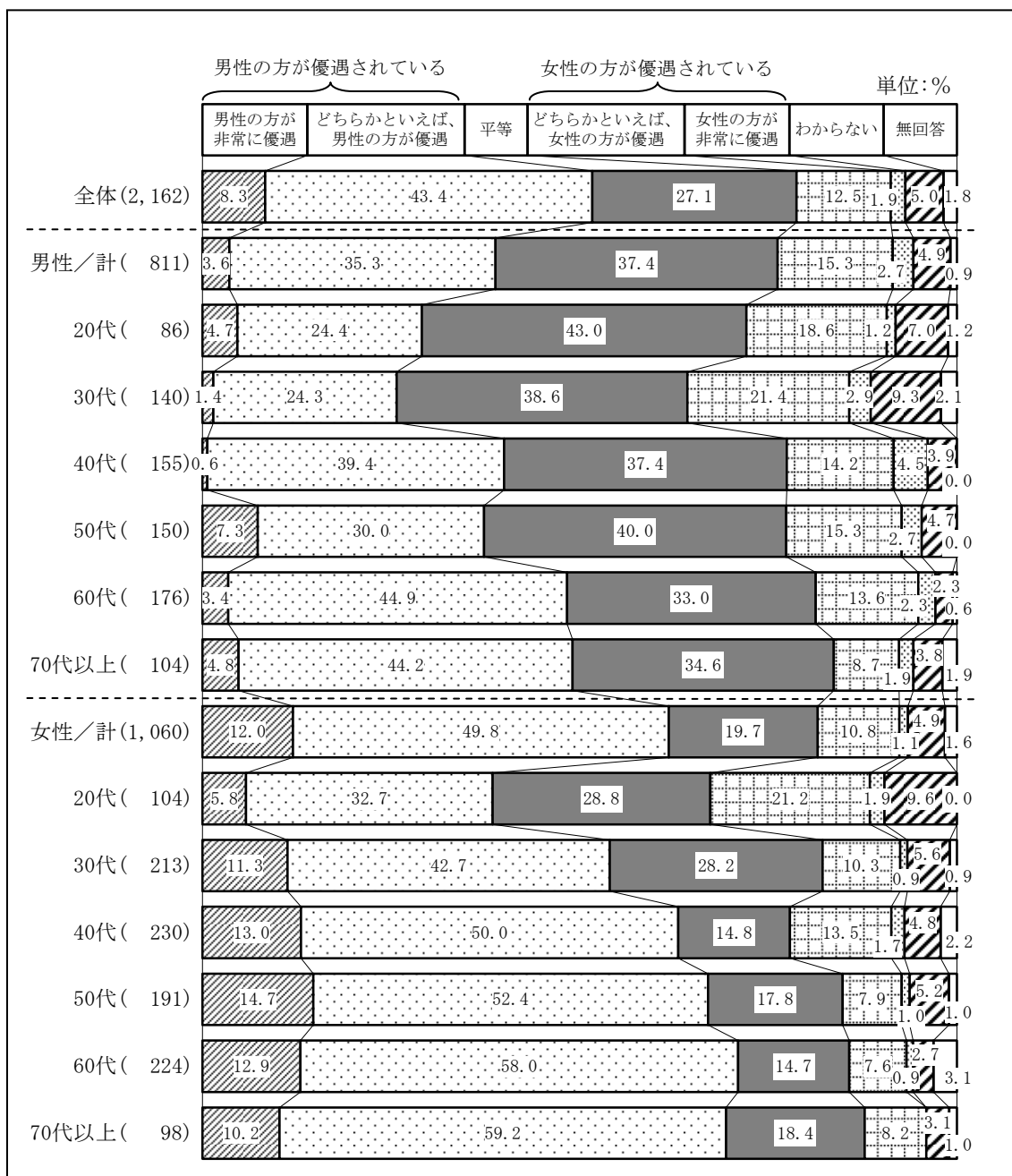
『家庭生活の場』について“男性の方が優遇されている”という回答は、女性（61.8%）が男性（38.9%）を23ポイント上回っています。

『法律や制度上』について“男性の方が優遇されている”という回答は、女性（53.1%）

が男性（33.2%）を20ポイント上回っています。

『社会全体』について“男性の方が優遇されている”という回答は、女性（77.7%）が男性（60.5%）を17ポイント上回っています。

家庭生活の場

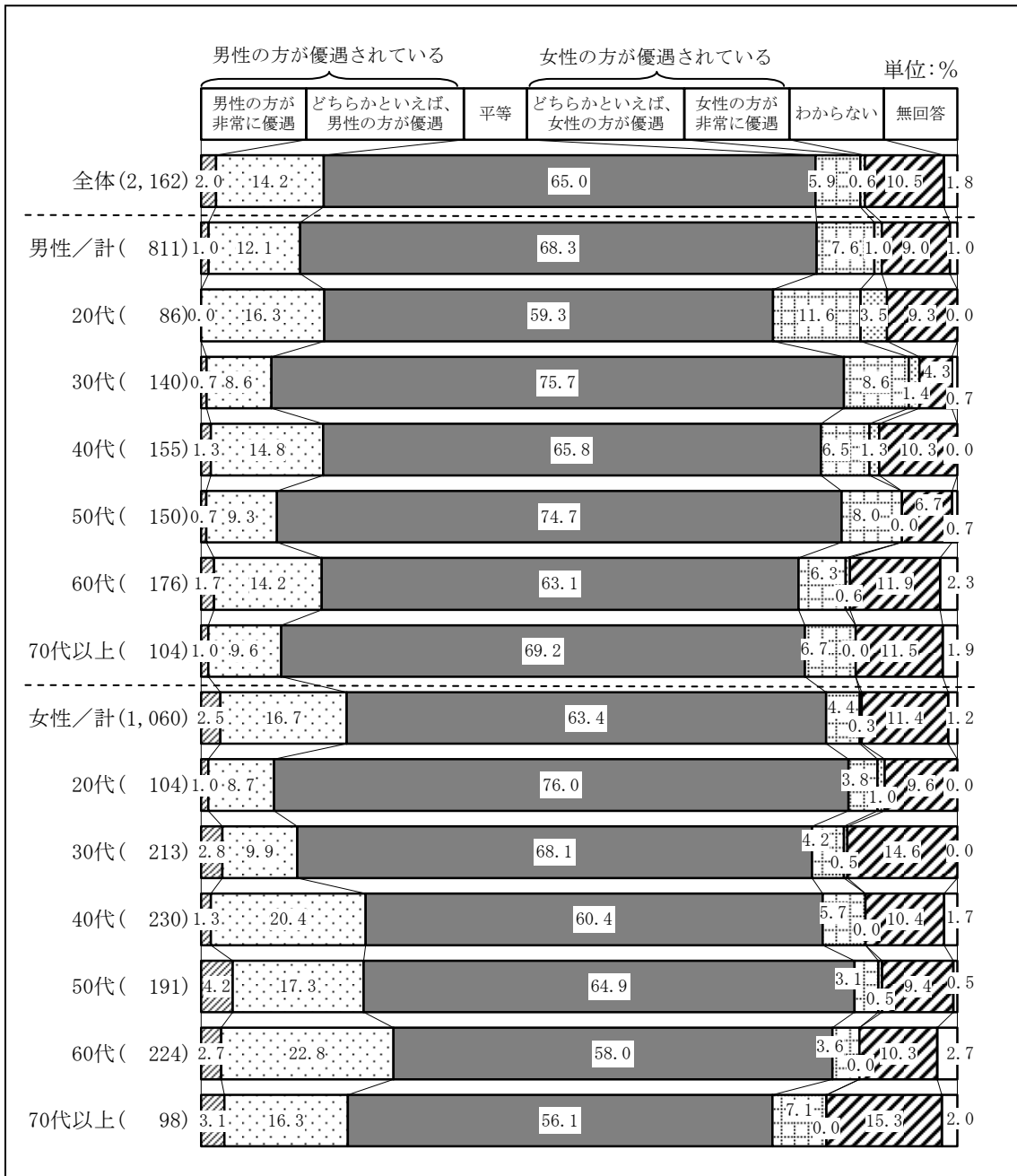


図表 15 各分野における男女の地位の平等感『家庭生活の場』（男女・年代別）

○男女・年代別の傾向

『家庭生活の場』について、女性の60代（70.9%）で“男性の方が優遇されている”が7割となっています。また、「平等」という回答は、男性のいずれの年代でも3割以上であるのに対し、女性の20～30代では3割弱、その他の年代では1割台となっています。

学校教育の場

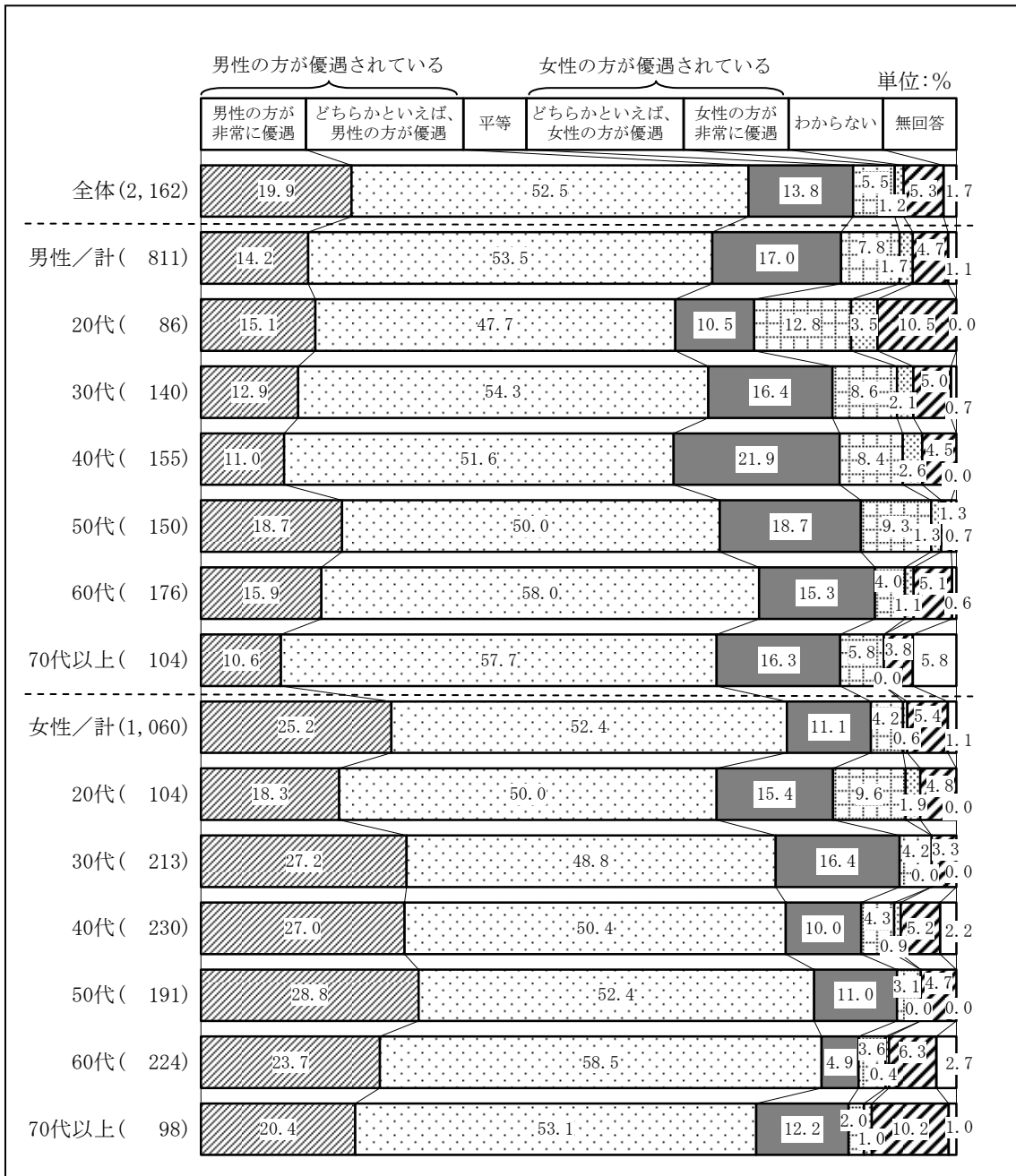


図表 16 各分野における男女の地位の平等感『学校教育の場』（男女・年代別）

○男女・年代別の傾向

『学校教育の場』について、“男性の方が優遇されている”という回答は女性の40～60代で2割以上となっています。「平等」という回答は、30代以上では男性が女性を上回っているのに対し、20代では女性（76.0%）が男性（59.3%）を16ポイント上回っています。

職場

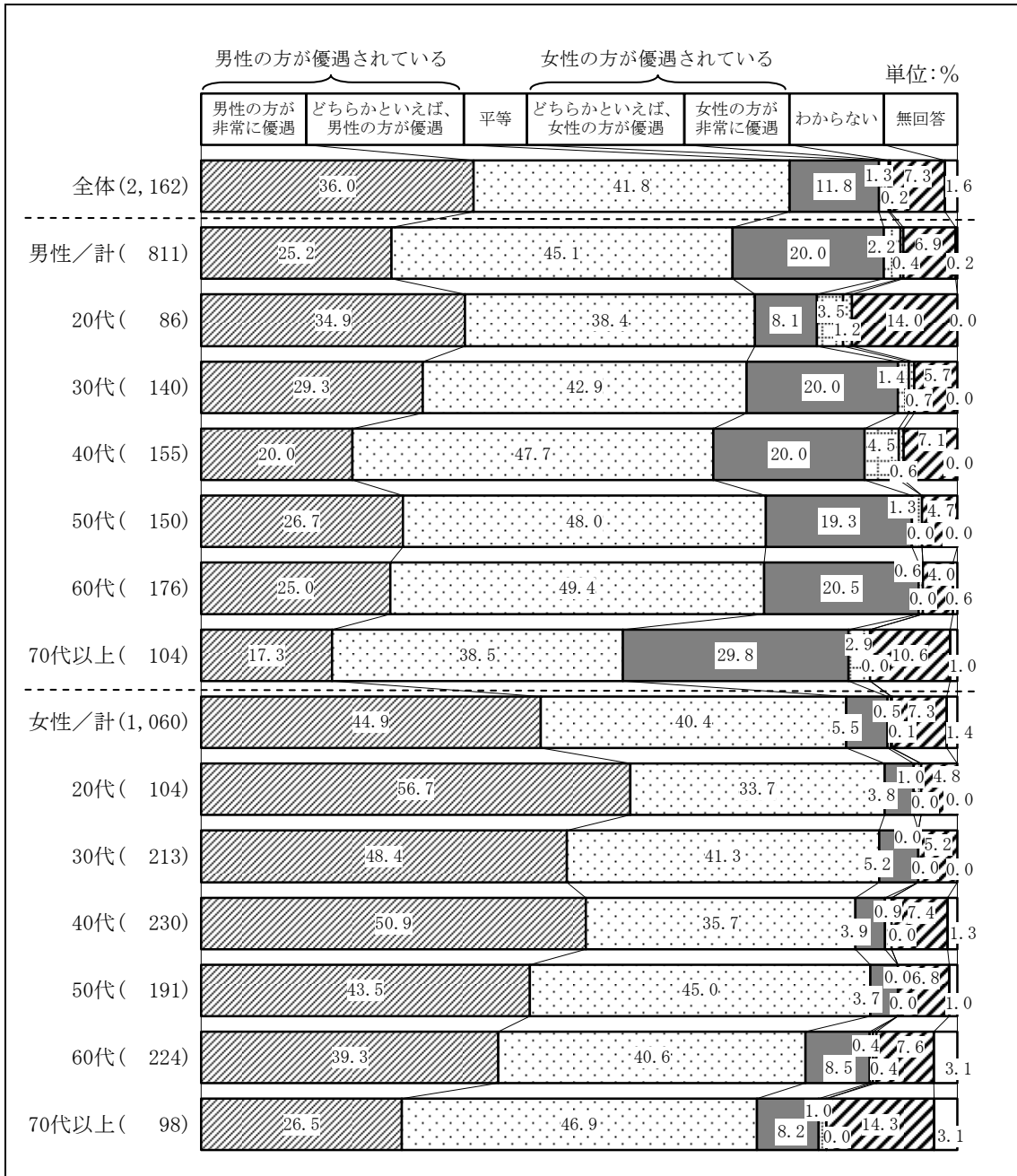


図表 17 各分野における男女の地位の平等感『職場』（男女・年代別）

○男女・年代別の傾向

『職場』について、女性の50～60代では“男性の方が優遇されている”が8割以上を占めています。

政治の場

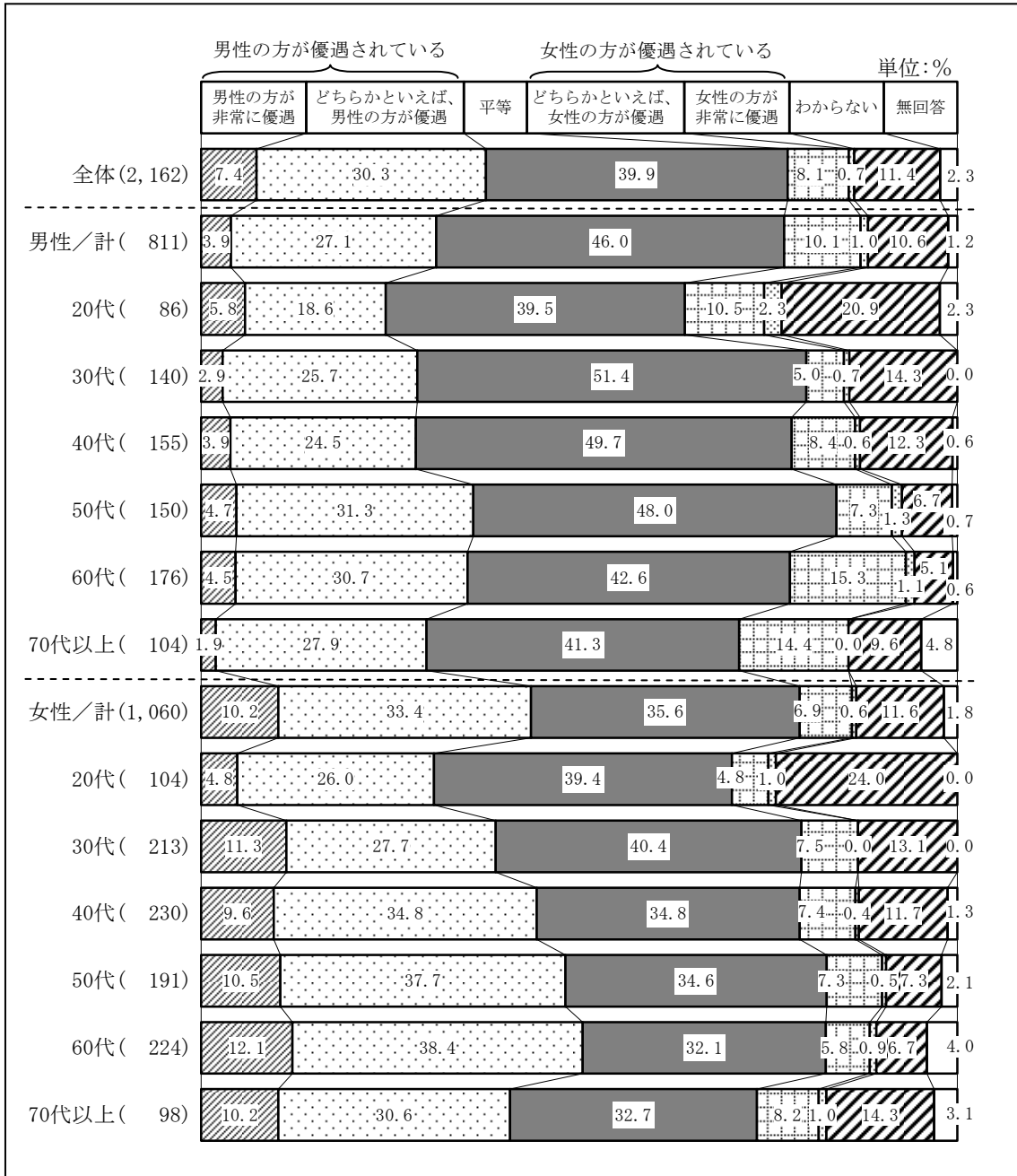


図表 18 各分野における男女の地位の平等感『政治の場』（男女・年代別）

○男女・年代別の傾向

『政治の場』について、女性の20代では“男性の方が優遇されている”が9割を占めています。「平等」という回答は、いずれの年代とも男性が女性を上回り、70代以上では男性(29.8%)が女性(8.2%)を21ポイント上回っています。

地域活動の場

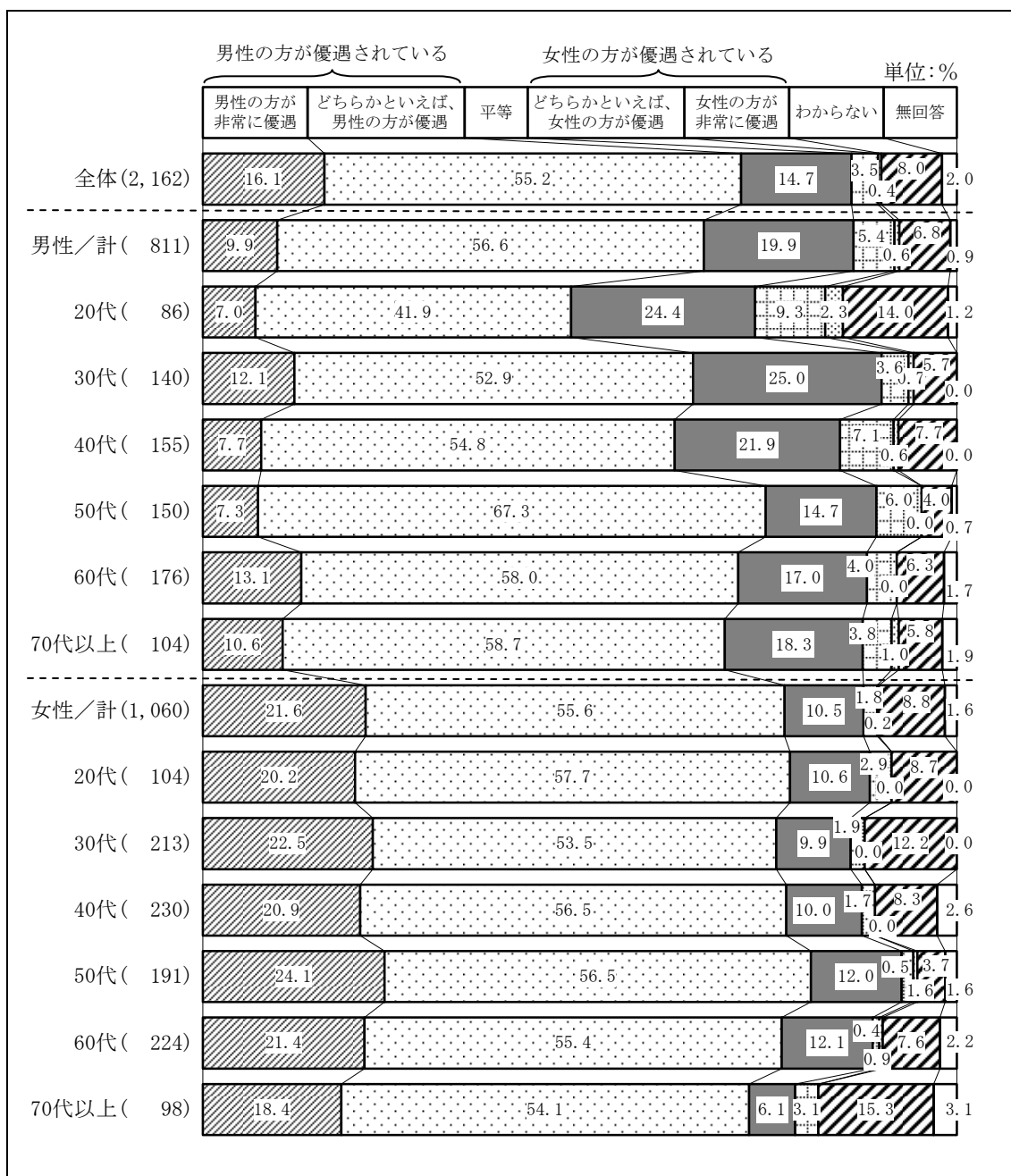


図表 19 各分野における男女の地位の平等感『地域活動の場』（男女・年代別）

○男女・年代別の傾向

『地域活動の場』について、女性では20～60代では年代が上がるともに“男性の方が優遇されている”が増加する傾向にあり、60代では半数に達しています。

社会通念や慣習などの場

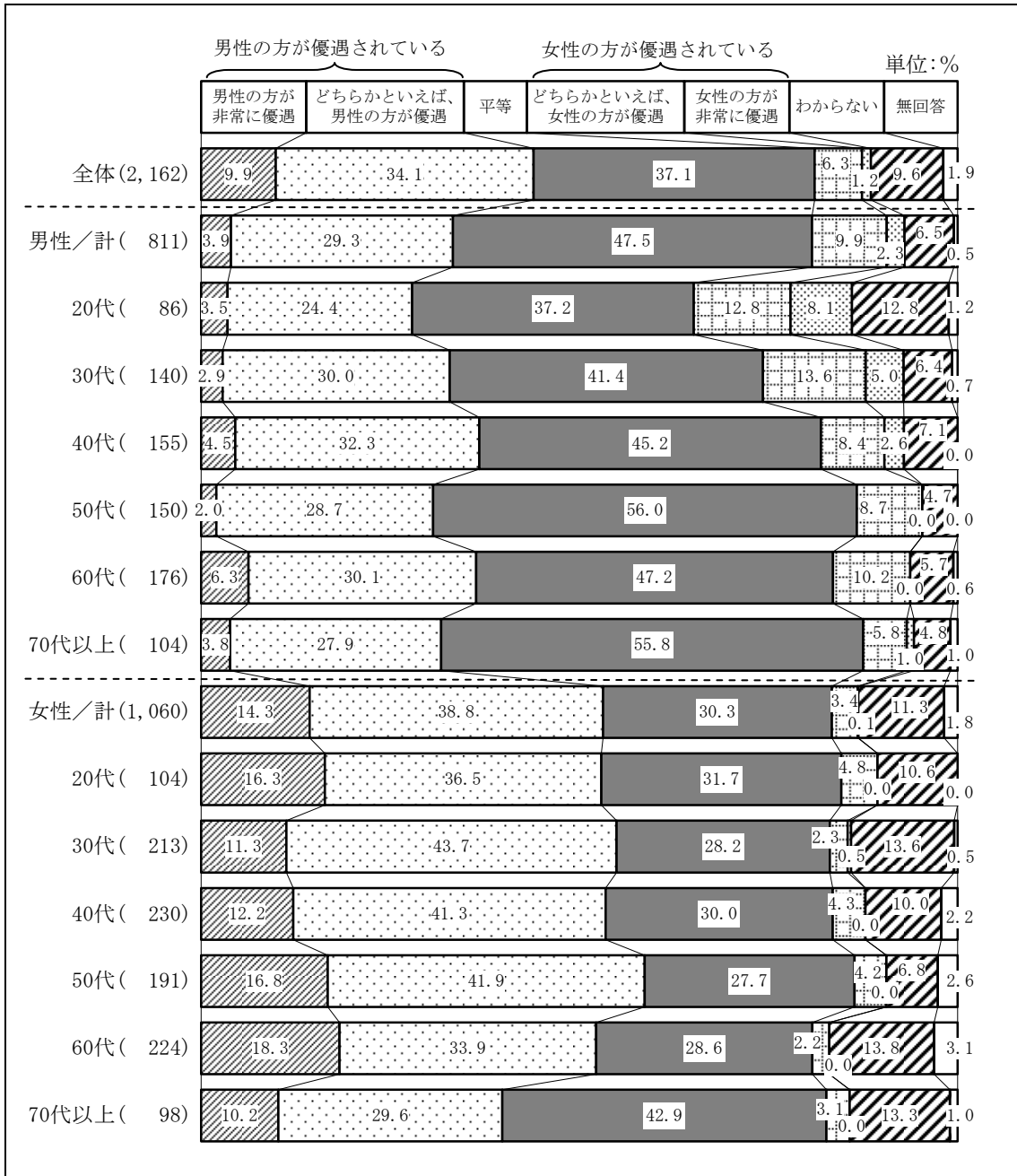


図表 20 各分野における男女の地位の平等感『社会通念や慣習など』（男女・年代別）

○男女・年代別の傾向

『社会通念や慣習など』について、男性の50～60代と女性のすべての年代で“男性の方が優遇されている”が7割以上となっているのに対し、男性の20代では5割弱、30～40代で6割台となっています。

法律や制度上

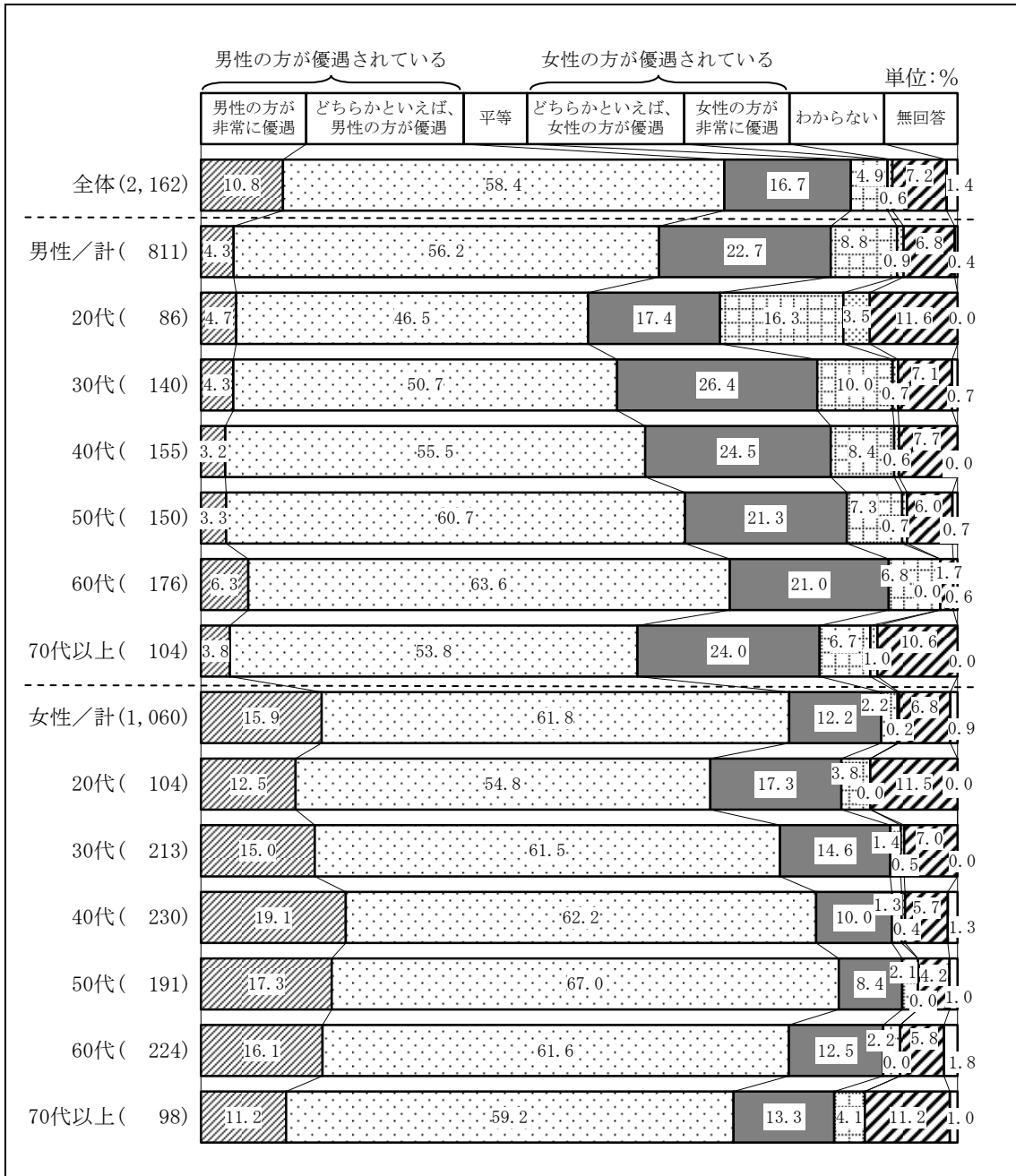


図表 21 各分野における男女の地位の平等感『法律や制度上』（男女・年代別）

○男女・年代別の傾向

『法律や制度上』について、男性の50代と70代以上では「平等」が6割弱を占めているのに対し、女性では20～60代で3割前後、70代以上で4割強となっています。

社会全体

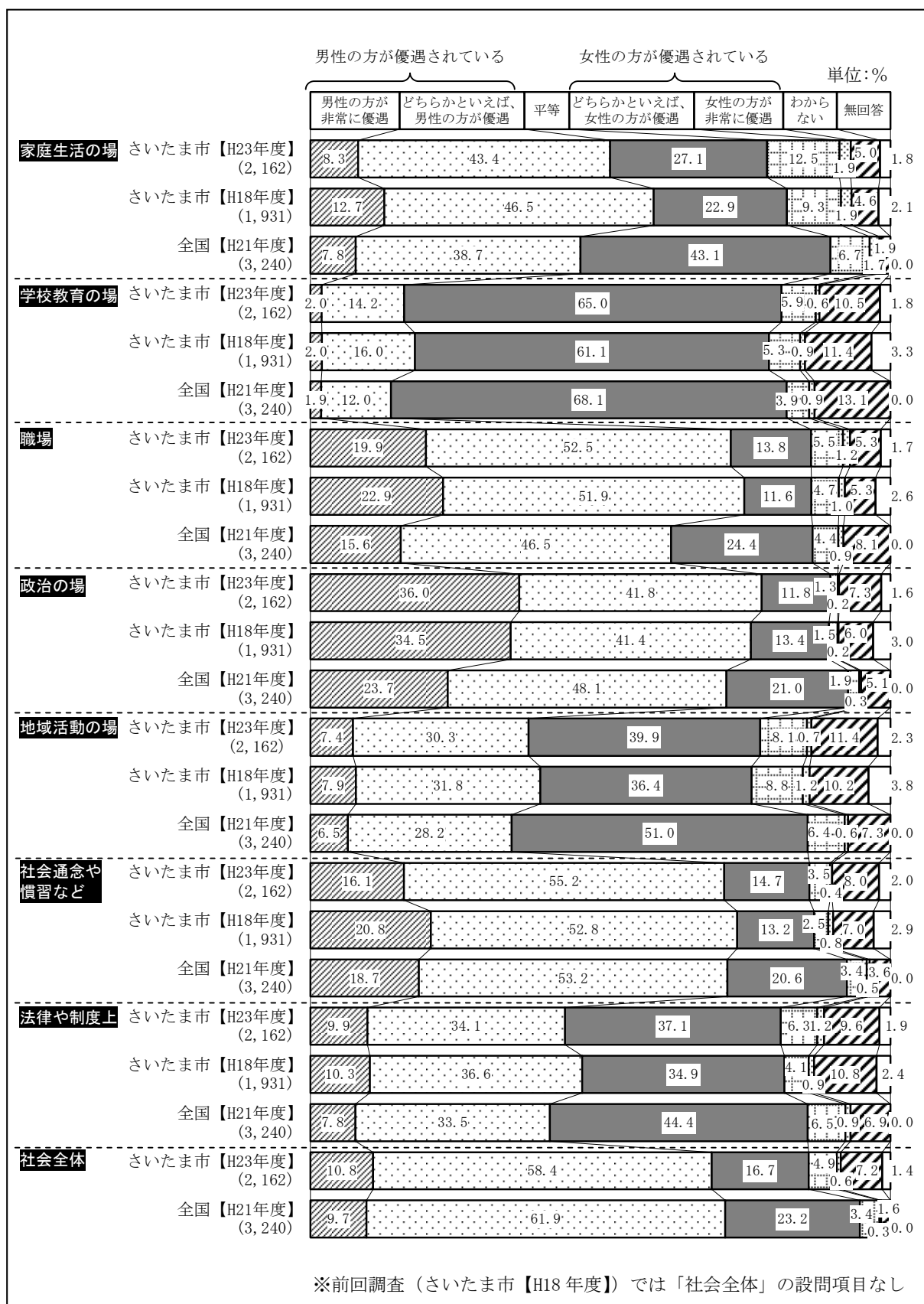


図表 22 各分野における男女の地位の平等感『社会全体』（男女・年代別）

○男女・年代別の傾向

『社会全体』について、男性は20～60代で、女性は20～50代で年代が上がるともに“男性の方が優遇されている”が増加する傾向にあり、男性の50～60代では6割以上、女性の40～50代では8割以上と、他の年代に比べて多くなっています。

《前回調査、全国調査との比較》



図表 23 各分野における男女の地位の平等感《前回調査、全国調査との比較》

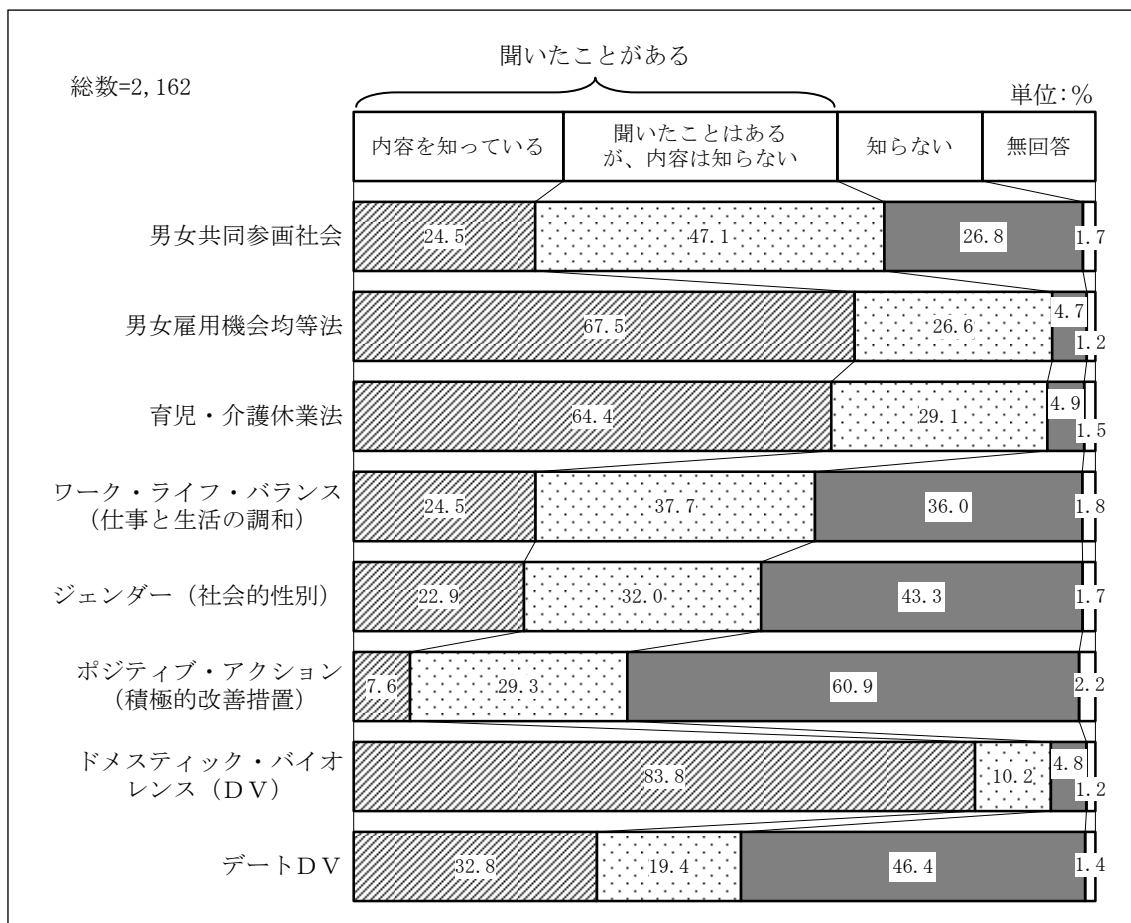
●前回調査、全国調査との比較

前回調査と比較すると、“男性の方が優遇されている”という認識は、『家庭生活の場』では今回調査が前回調査を7ポイント下回っていますが、その他の項目では大きな差はありません。

全国調査と比較すると、“男性の方が優遇されている”という認識は、『家庭生活の場』『職場』『政治の場』では本市調査が全国調査を5ポイント以上上回っていますが、その他の項目では大きな差はありません。「平等」という認識は、すべての項目で全国調査が本市調査を上回っており、特に『家庭生活の場』『職場』『地域活動の場』ではその差が10ポイント以上になっています。

問3 男女共同参画に関する言葉の認知度

あなたは、次にあげる言葉について、見たり聞いたりしたことがありますか。(ア～クのそれぞれについて、あてはまる「1～3」に○を1つ)



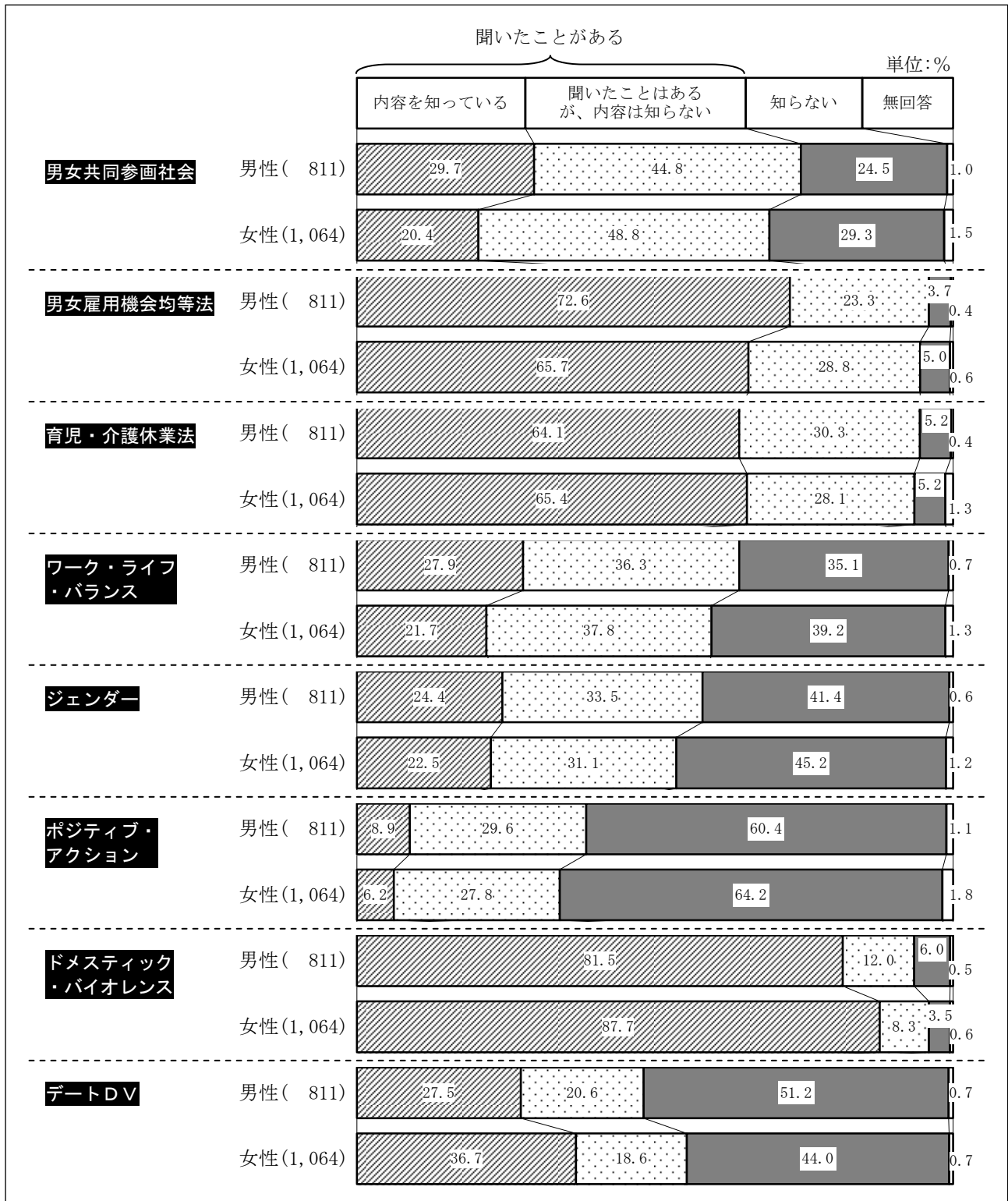
図表 24 男女共同参画に関する言葉の認知度

○全体の傾向

男女共同参画に関する用語について、「内容を知っている」(内容の認知度)が最も多いのは、『ドメスティック・バイオレンス (DV)』で 83.8%となっています。また、『男女雇用機会均等法』(67.5%)、『育児・介護休業法』(64.4%)の内容の認知度は6割を上回っています。

その一方で、『ポジティブ・アクション』の内容の認知度は 7.6%にとどまっており、「知らない」という回答が 60.9%となっています。

また、「聞いたことがある(「内容を知っている」と「聞いたことはあるが、内容は知らない」の合計)」は、『ポジティブ・アクション』を除くすべての項目で半数を超えています。

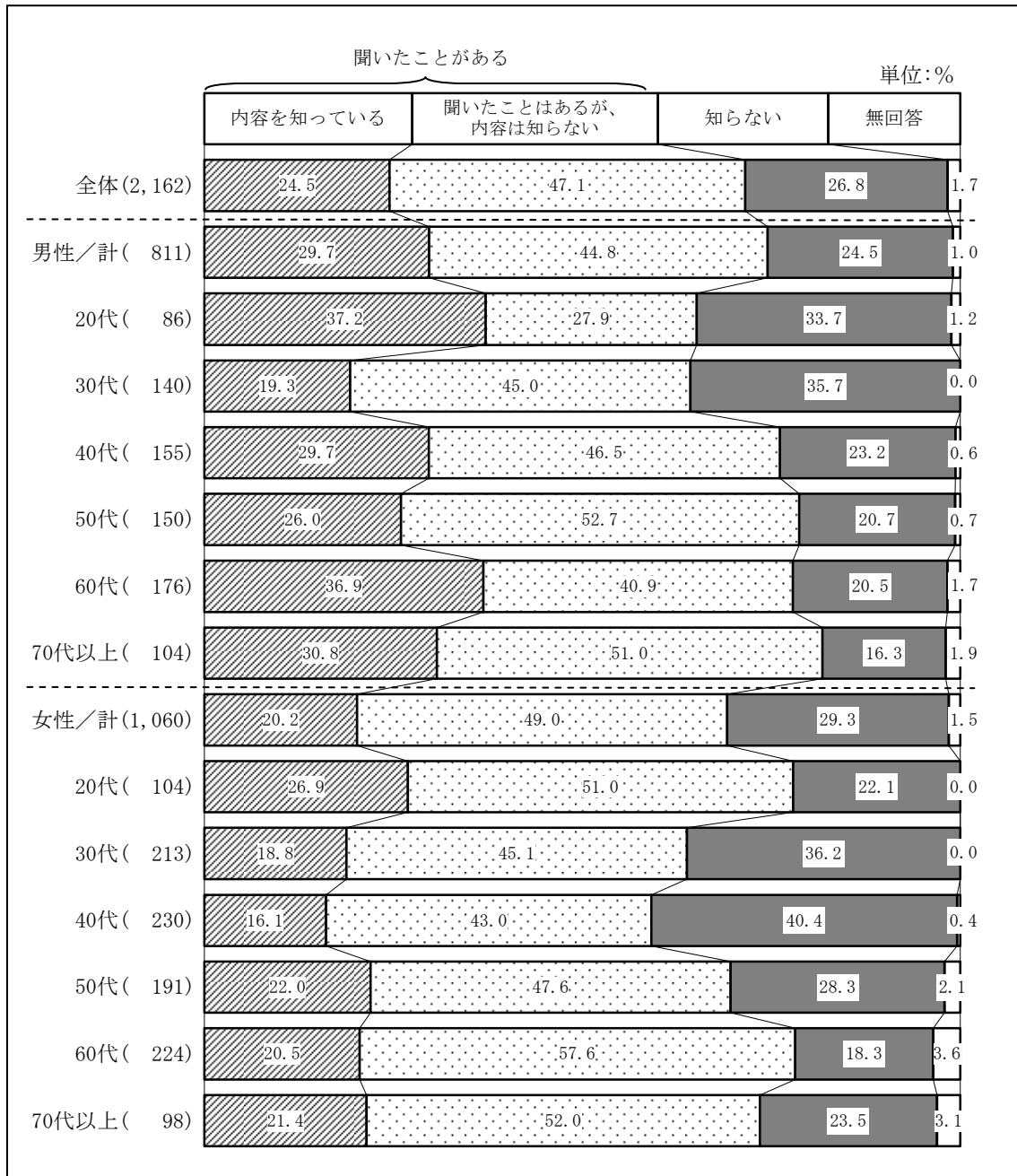


図表 25 男女共同参画に関する言葉の認知度（男女別）

○男女別の傾向

『男女共同参画社会』『男女雇用機会均等法』『ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）』の内容の認知度については男性の方が高く、配偶者などからの暴力に関する用語（『ドメスティック・バイオレンス（DV）』『デートDV』）の内容の認知度については女性の方が高くなっています。

男女共同参画社会



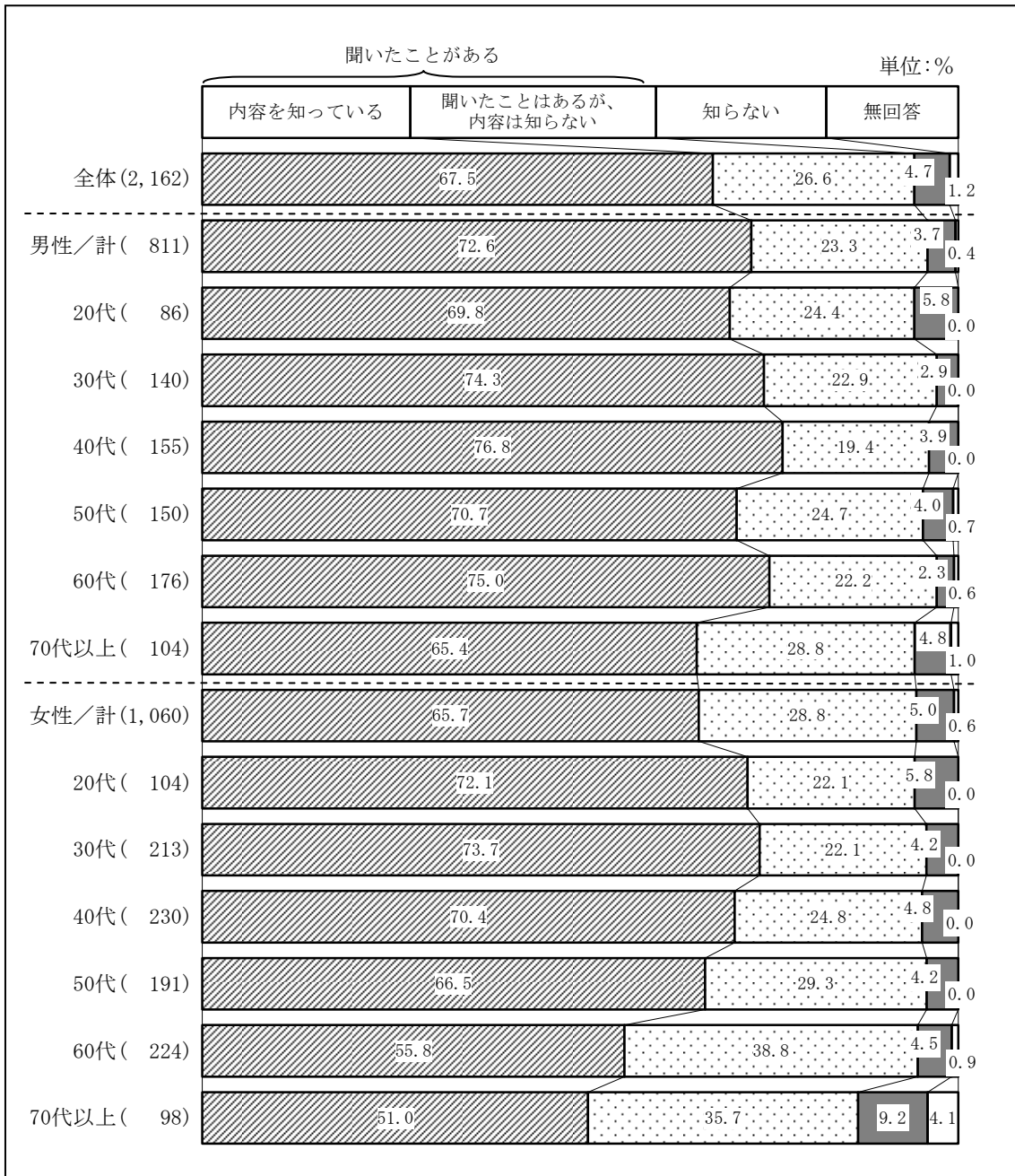
図表 26 男女共同参画に関する言葉の認知度『男女共同参画社会』（男女・年代別）

○男女・年代別の傾向

『男女共同参画社会』について「内容を知っている」という回答は、男女の20代（男性：37.2%、女性：26.9%）と男性の60代（36.9%）で他の年代に比べて多くなっています。

一方、「知らない」は男性の20～30代、女性の30～40代で3割以上と他の年代に比べて多くなっています。

男女雇用機会均等法

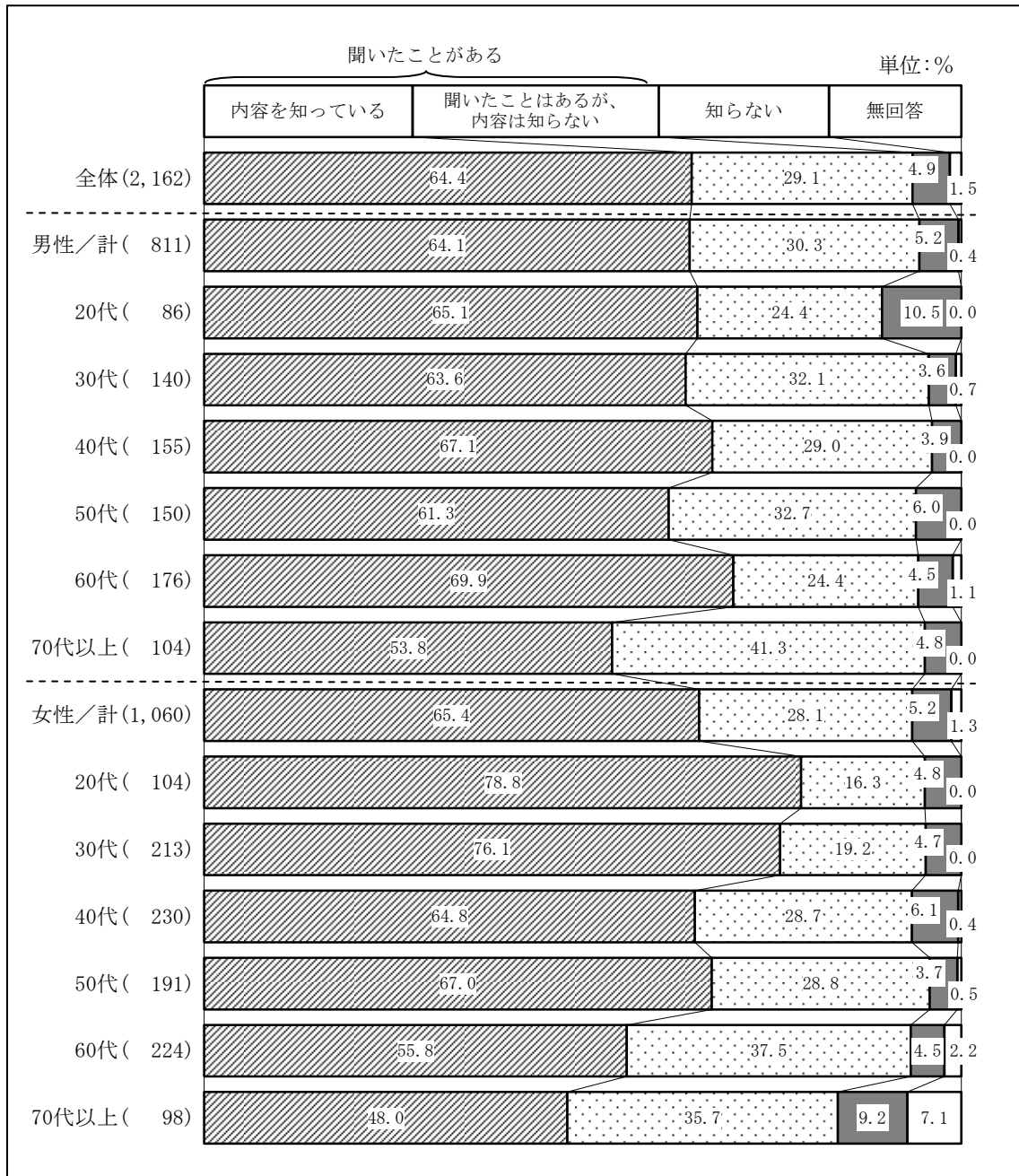


図表 27 男女共同参画に関する言葉の認知度『男女雇用機会均等法』（男女・年代別）

○男女・年代別の傾向

『男女雇用機会均等法』について「内容を知っている」という回答は、男性の30～60代で7割台となっています。女性は20～40代で7割台となっていますが、年代が上がるとともに減少する傾向にあります。

育児・介護休業法

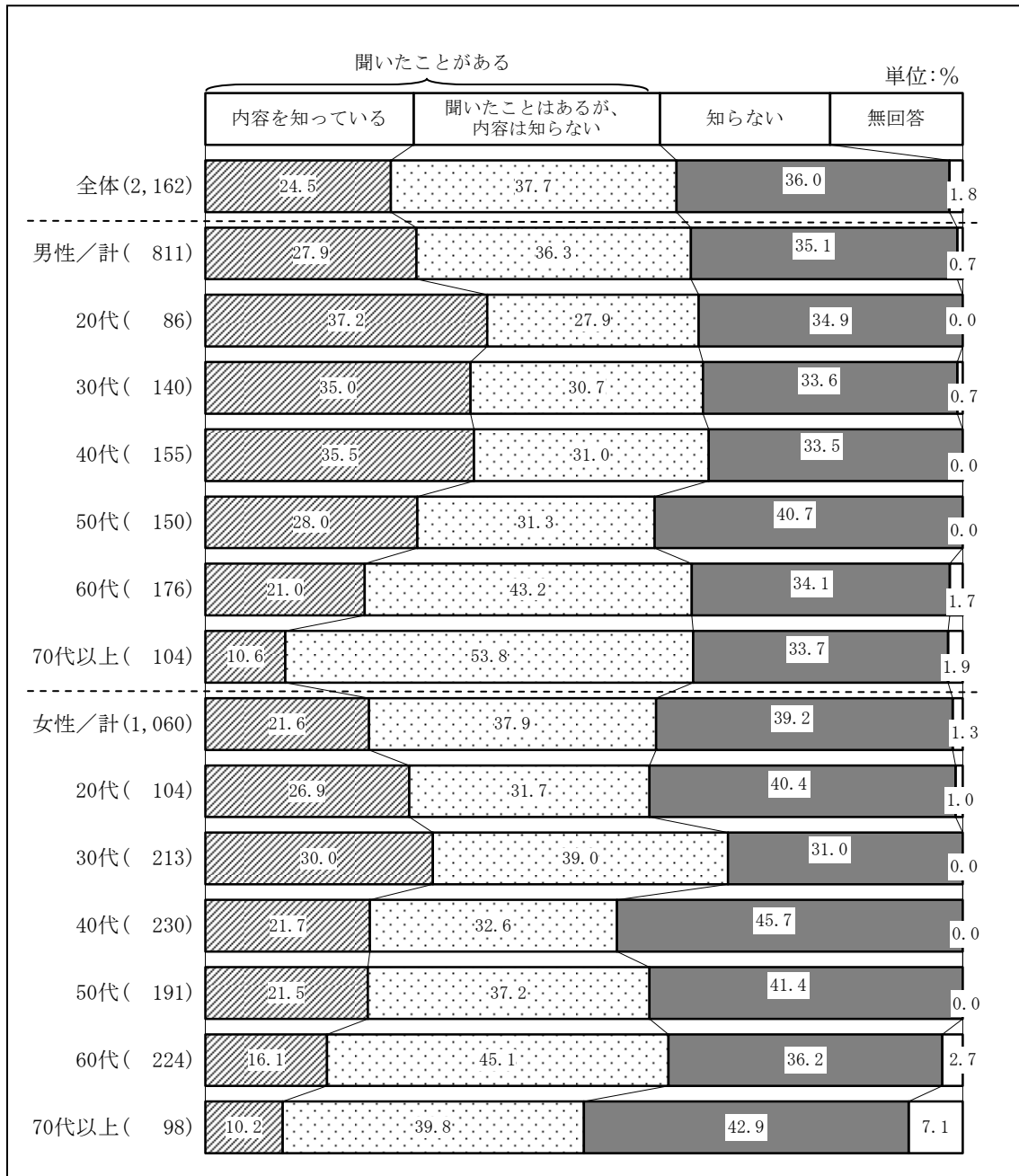


図表 28 男女共同参画に関する言葉の認知度『育児・介護休業法』（男女・年代別）

○男女・年代別の傾向

『育児・介護休業法』について「内容を知っている」という回答は、男性の20～60代で6割台となっています。女性は20～30代で8割弱となっていますが、おおむね年代が上がるとともに減少する傾向にあります。

ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）

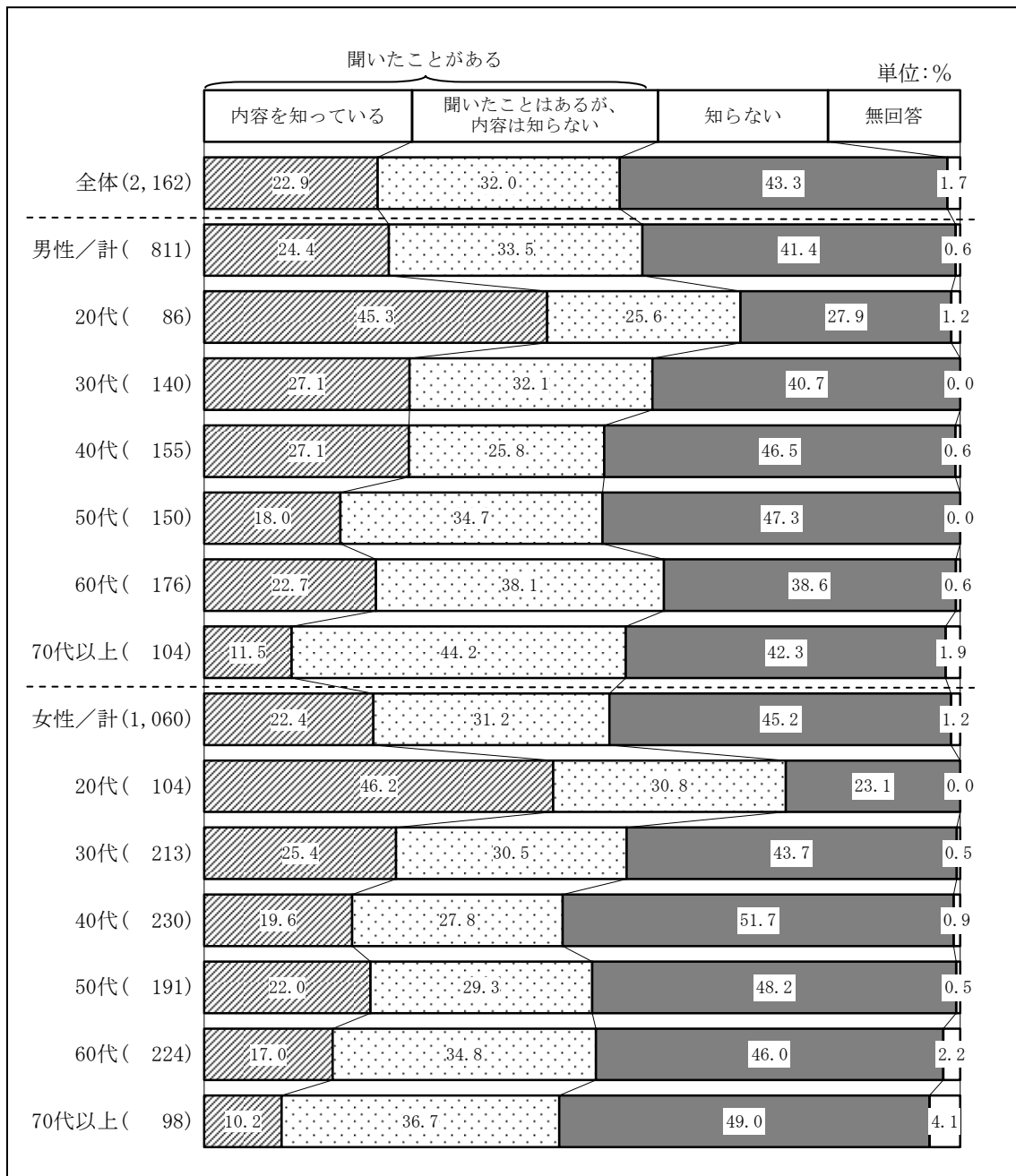


図表 29 男女共同参画に関する言葉の認知度『ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）』（男女・年代別）

○男女・年代別の傾向

『ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）』について「内容を知っている」という回答は、男性では20代（37.2%）、女性では30代（30.0%）をピークに年代とともに減少する傾向にあります。男女ともに70代以上では1割台となっています。

ジェンダー（社会的性別）

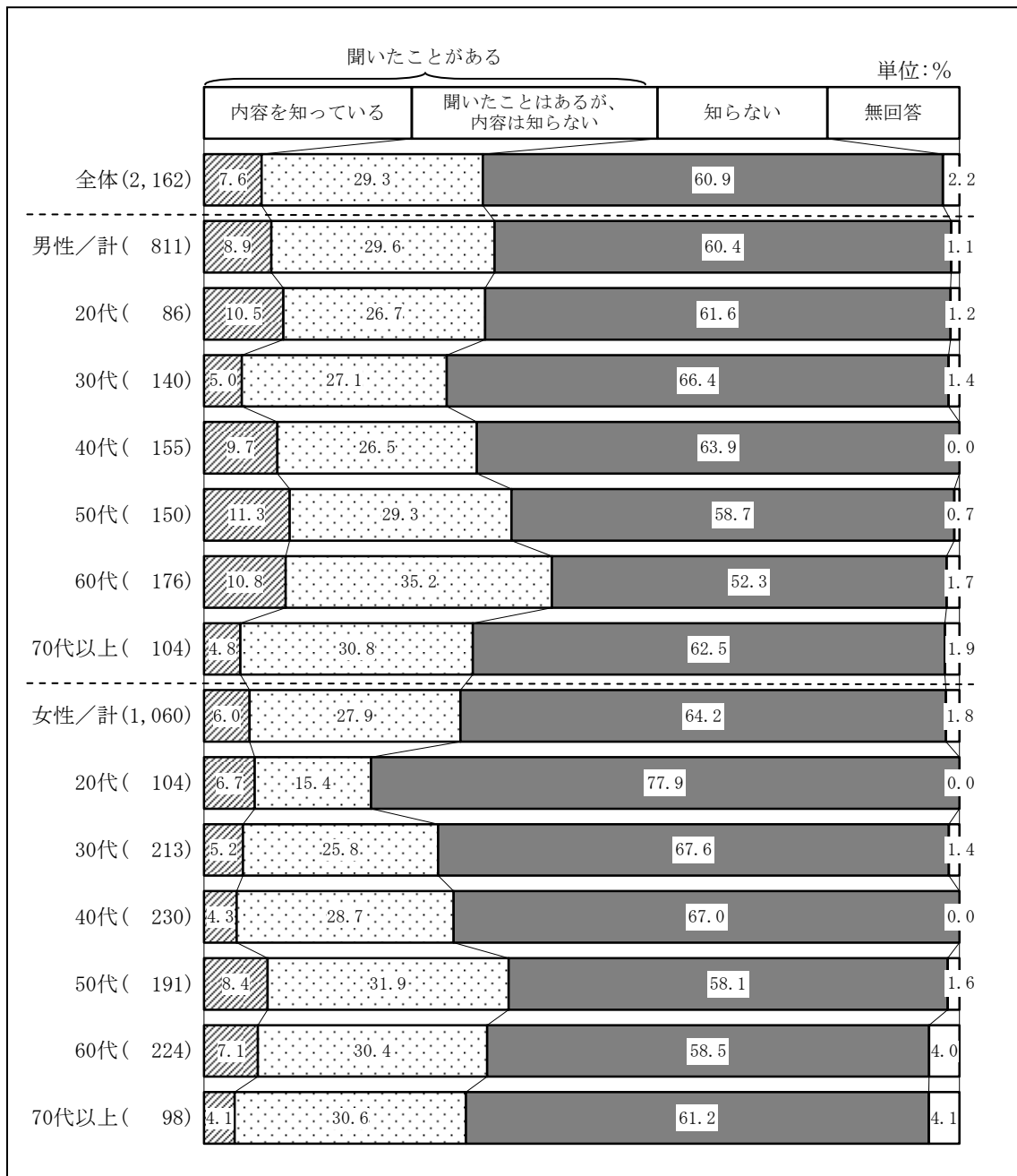


図表 30 男女共同参画に関する言葉の認知度『ジェンダー（社会的性別）』（男女・年代別）

○男女・年代別の傾向

『ジェンダー（社会的性別）』について「内容を知っている」という回答は、男女ともに20代（男性：45.3%、女性：46.2%）で4割強を占めており、他の年代に比べて多くなっています。

ポジティブ・アクション

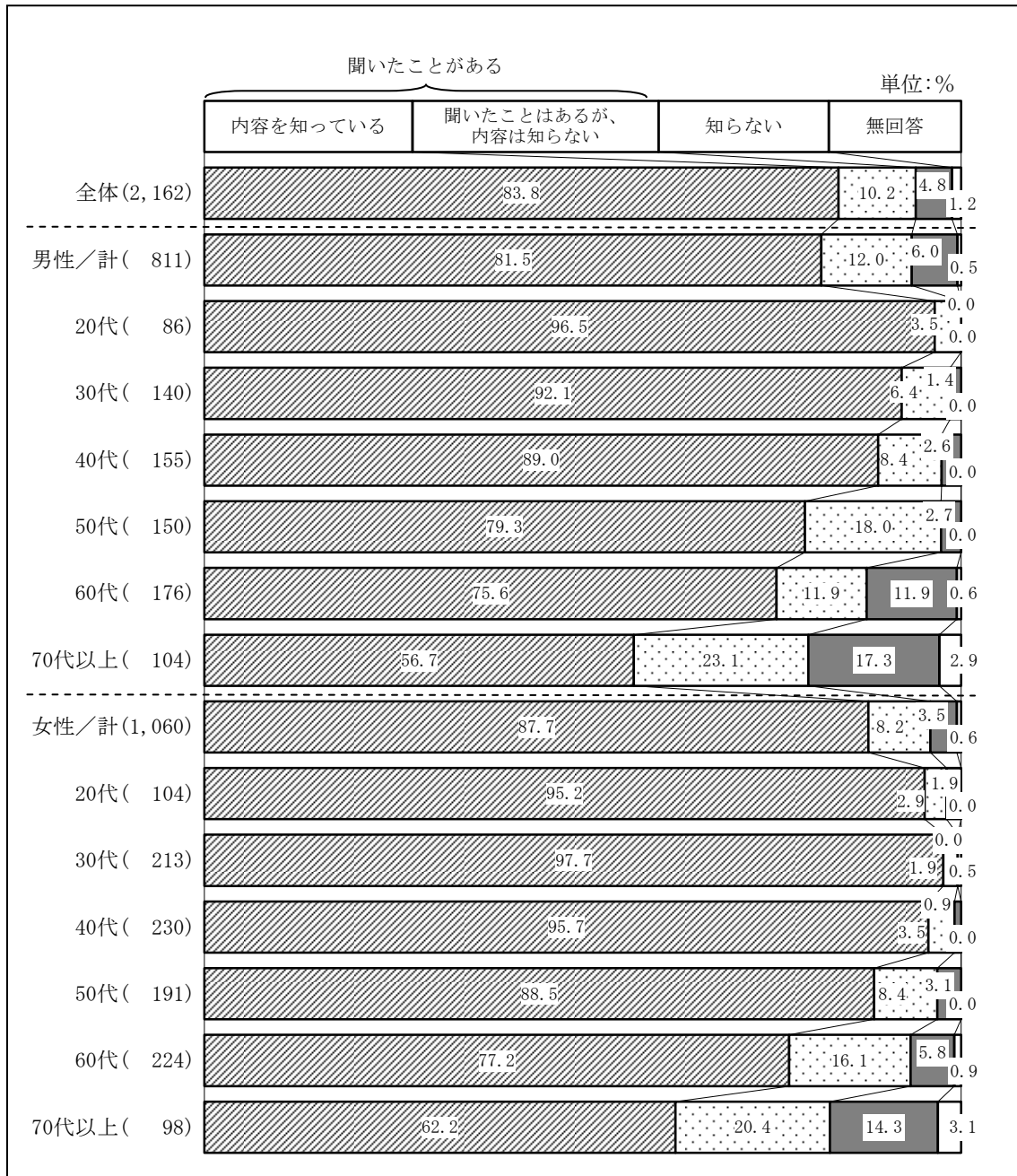


図表 31 男女共同参画に関する言葉の認知度『ポジティブ・アクション』（男女・年代別）

○男女・年代別の傾向

『ポジティブ・アクション』について「内容を知っている」という回答は、男性の30～40代と70代以上、女性のすべての年代で1割未満にとどまっています。

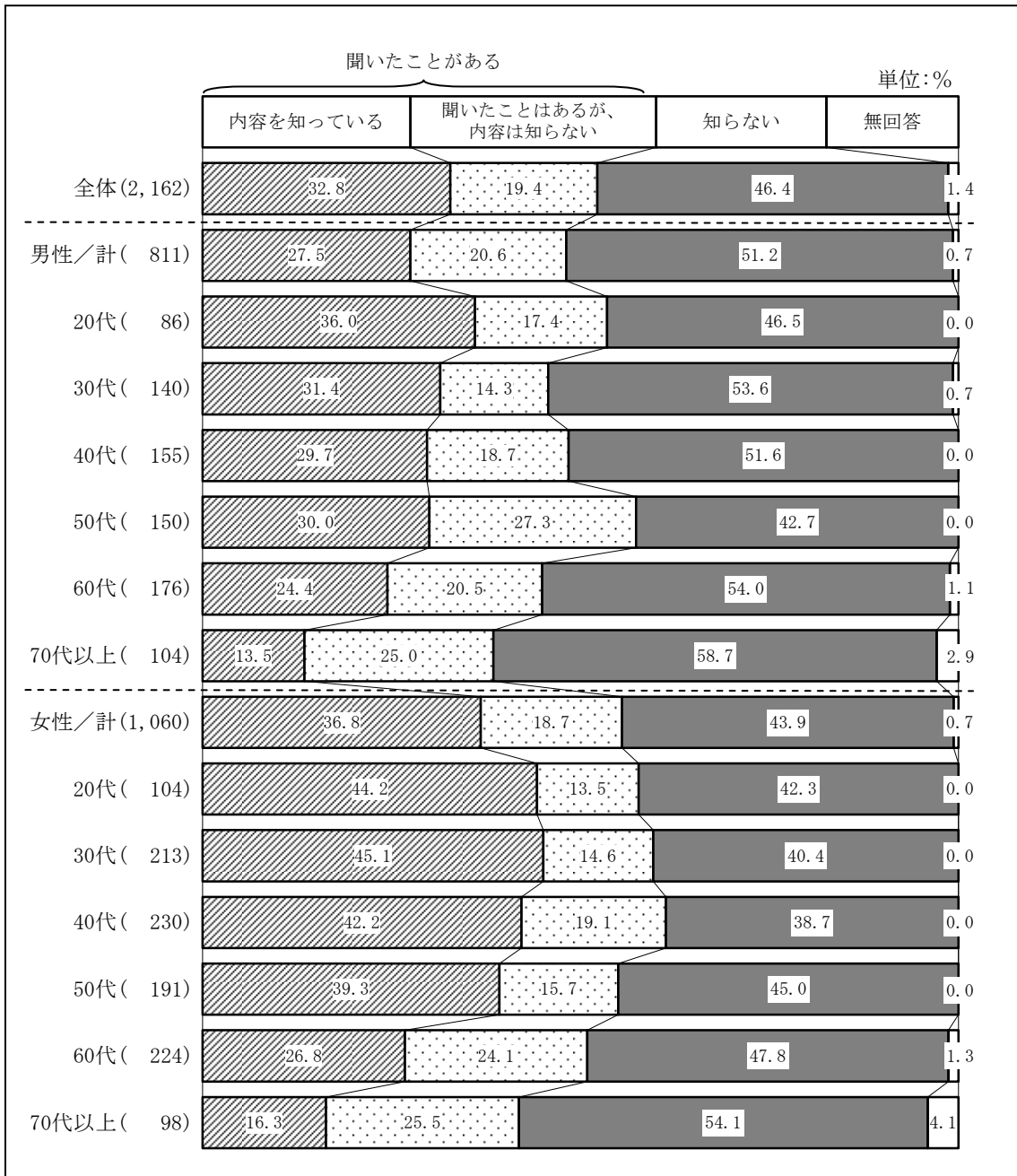
ドメスティック・バイオレンス (DV)



図表 32 男女共同参画に関する言葉の認知度『ドメスティック・バイオレンス (DV)』(男女・年代別)

○男女・年代別の傾向

『ドメスティック・バイオレンス (DV)』について「内容を知っている」という回答は、男性の20～30代と女性の20～40代で9割以上を占めており、年代が上がるるとともに減少する傾向にあります。

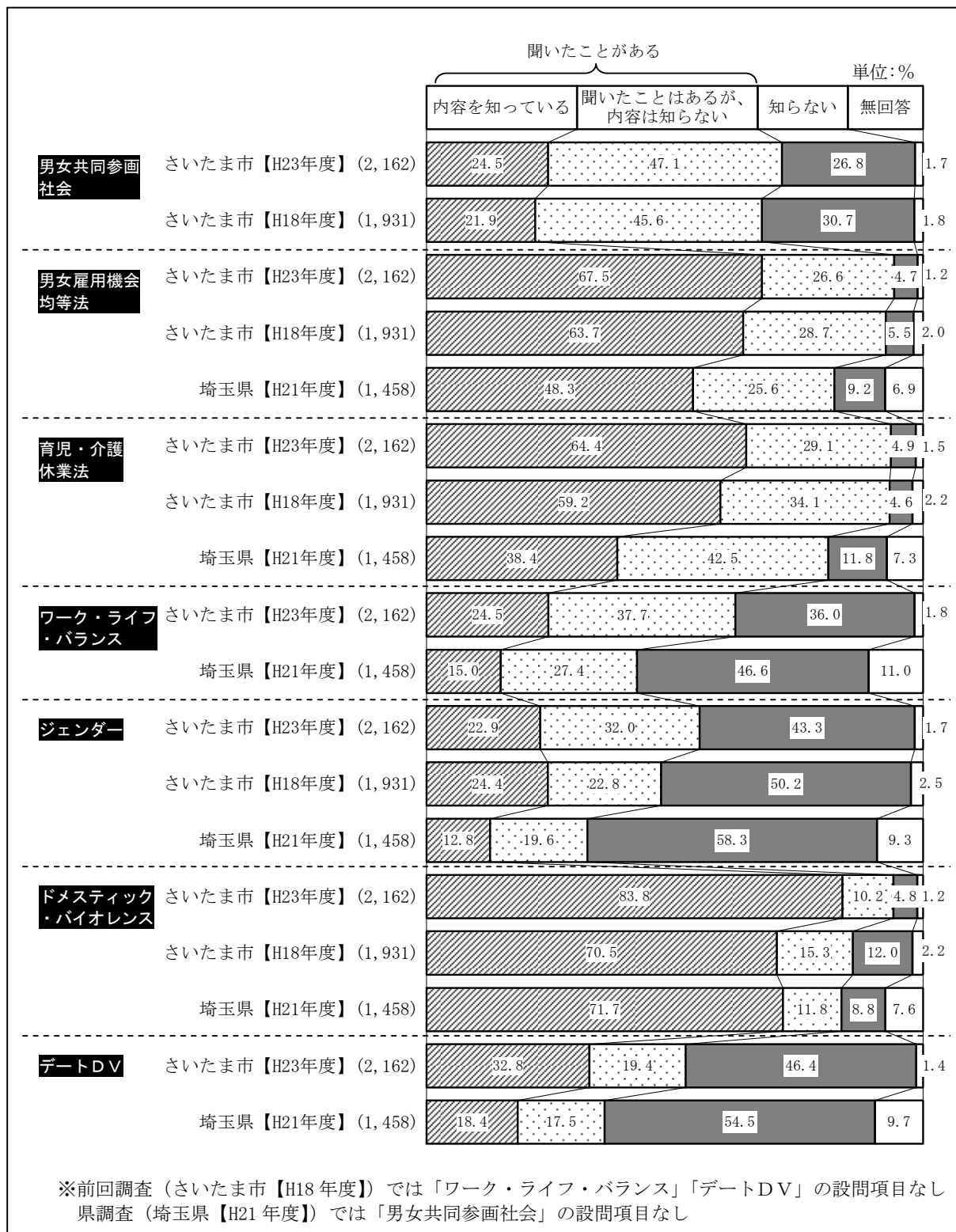


図表 33 男女共同参画に関する言葉の認知度『デートDV』（男女・年代別）

○男女・年代別の傾向

『デートDV』について「内容を知っている」という回答は、男性では20代（36.0%）、女性では30代（45.1%）をピークにおおむね年代が上がるとともに減少する傾向にあり、70代以上では1割台になっています。

《前回調査、埼玉県調査との比較》



図表 34 男女共同参画に関する言葉の認知度《前回調査、埼玉県調査との比較》

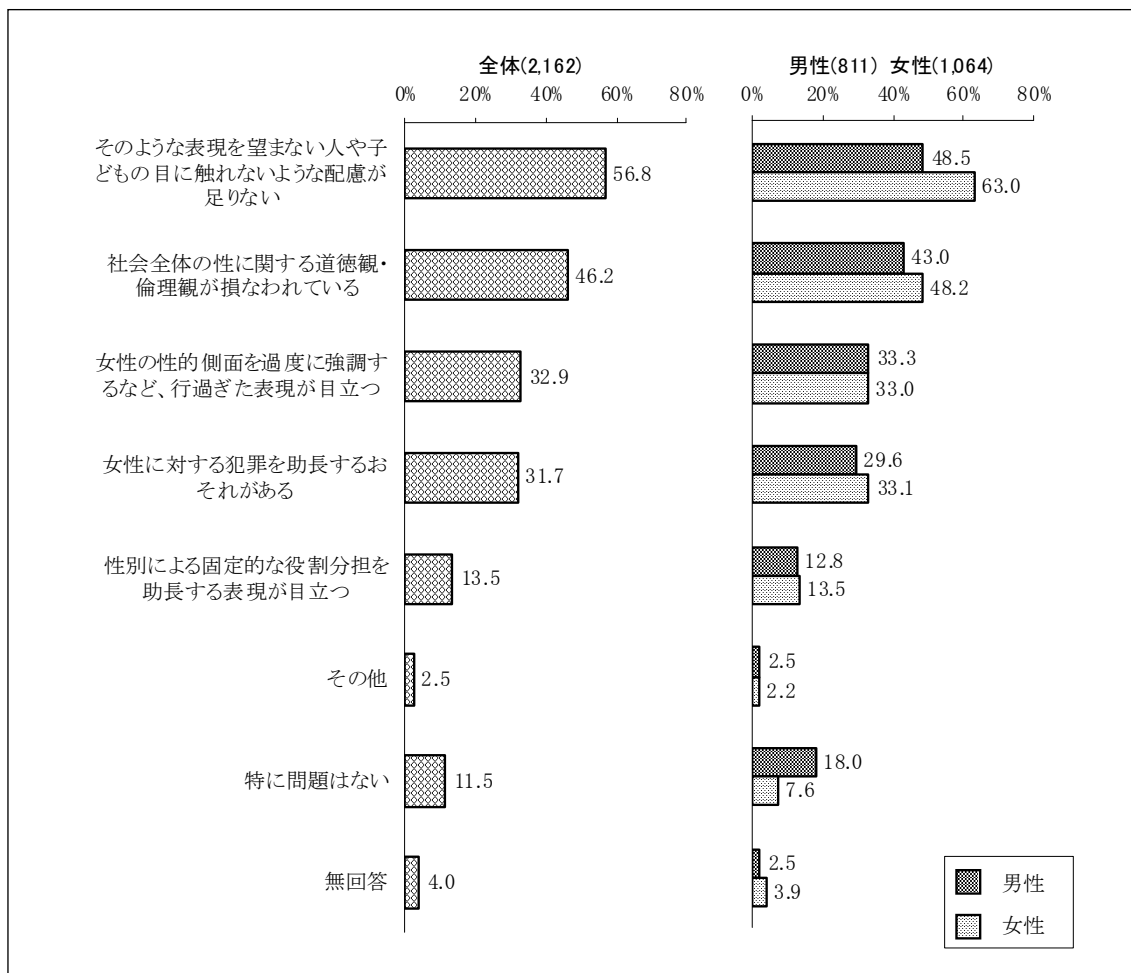
●前回調査、埼玉県調査との比較

前回調査と比較すると、今回調査の内容の認知度は『育児・介護休業法』で5ポイント、『ドメスティック・バイオレンス（DV）』で13ポイント、『デートDV』で19ポイント上回っています。

埼玉県調査と比較すると、内容の認知度はすべての項目で本市調査が埼玉県調査をおおむね10ポイント以上上回っており、特に『男女雇用機会均等法』『育児・介護休業法』ではその差が大きくなっています。

問4 メディアにおける性・暴力表現についての考え方

テレビ、映画、新聞、雑誌、インターネットなどメディアでの性別による固定的な役割分担の表現や、女性に対する暴力、性の表現について、あなたはどのように考えますか。(〇はいくつでも)



図表 35 メディアにおける性・暴力表現についての考え方

○全体の傾向

メディアにおける性・暴力表現に対する考え方としては「そのような表現を望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない」(56.8%)が最も多く、「社会全体の性に関する道德観・倫理観が損なわれている」(46.2%)が続いています。

○男女別の傾向

「そのような表現を望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない」(男性：48.5%、女性：63.0%)は、女性が男性を15ポイント程度上回っています。その一方で「特に問題はない」(男性：18.0%、女性：7.6%)は、男性が女性を10ポイント上回っています。

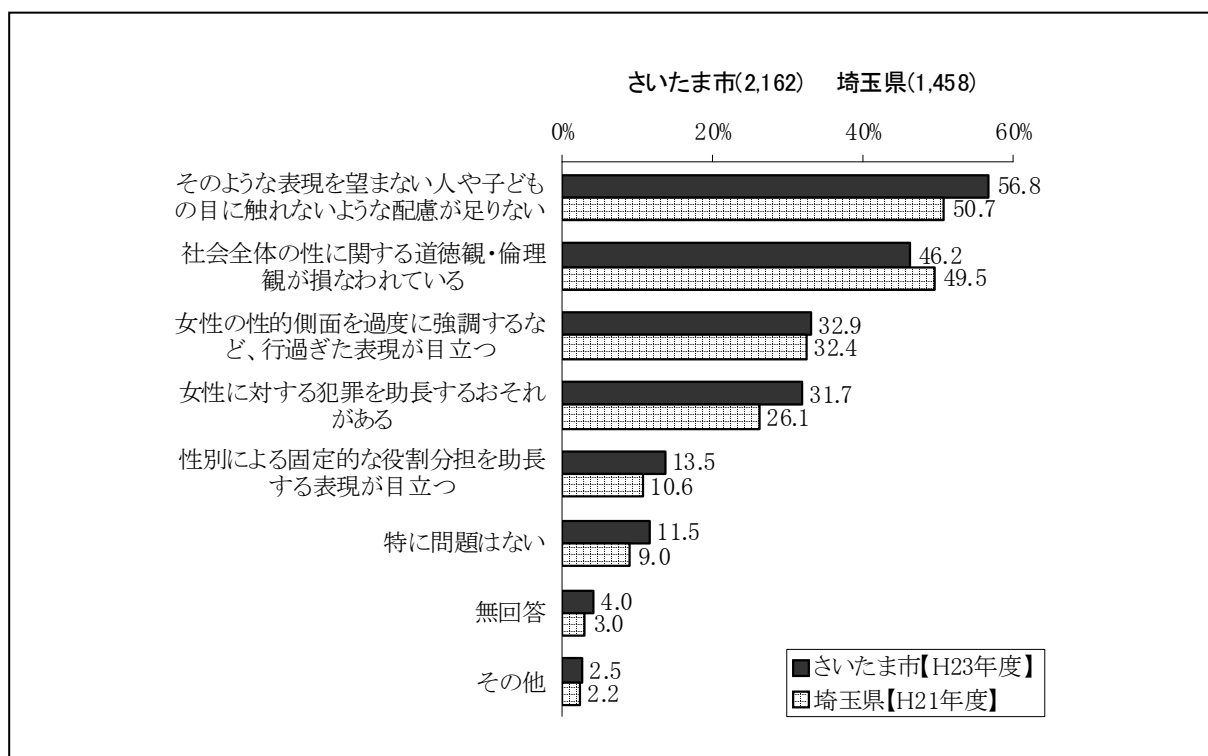
	全体	男女別による固定的な役割分担を助長する表現が目立つ	女性の性的側面を過度に強調するなど、行過ぎた表現が目立つ	社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている	女性に対する犯罪を助長するおそれがある	そのような表現を望まない人や子どもに触れないような配慮が足りない	その他	特に問題はない	無回答
全体	2,162 100.0	292 13.5	712 32.9	999 46.2	686 31.7	1,227 56.8	54 2.5	248 11.5	87 4.0
男女・年代別	男性／20代	86 100.0	11 12.8	31 36.0	26 30.2	29 33.7	33 38.4	- 23.3	20 1.2
	30代	140 100.0	17 12.1	39 27.9	46 32.9	36 25.7	52 37.1	5 3.6	40 1.4
	40代	155 100.0	18 11.6	45 29.0	55 35.5	50 32.3	84 54.2	- 20.0	31 2.6
	50代	150 100.0	19 12.7	52 34.7	68 45.3	49 32.7	69 46.0	6 4.0	21 14.0
	60代	176 100.0	23 13.1	62 35.2	96 54.5	50 28.4	96 54.5	4 2.3	20 11.4
	70代以上	104 100.0	16 15.4	41 39.4	58 55.8	26 25.0	59 56.7	5 4.8	14 13.5
	女性／20代	104 100.0	6 5.8	22 21.2	21 20.2	26 25.0	52 50.0	2 1.9	27 26.0
	30代	213 100.0	26 12.2	68 31.9	72 33.8	72 33.8	126 59.2	4 1.9	18 8.5
	40代	230 100.0	34 14.8	83 36.1	103 44.8	88 38.3	149 64.8	4 1.7	13 5.7
	50代	191 100.0	36 18.8	66 34.6	102 53.4	64 33.5	116 60.7	4 2.1	11 5.8
	60代	224 100.0	27 12.1	84 37.5	150 67.0	75 33.5	162 72.3	5 2.2	9 4.0
	70代以上	98 100.0	13 13.3	28 28.6	63 64.3	26 26.5	63 64.3	4 4.1	3 3.1
	無回答	291 100.0	46 15.8	91 31.3	139 47.8	95 32.6	166 57.0	11 3.8	21 7.2

図表 36 メディアにおける性・暴力表現についての考え方（男女・年代別）

○男女・年代別の傾向

「社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている」については、男女ともおおむね年代が上がるとともに増加する傾向にあり、男性では60代以上で、女性では50代以上で過半数を占めています。

◀埼玉県調査との比較▶



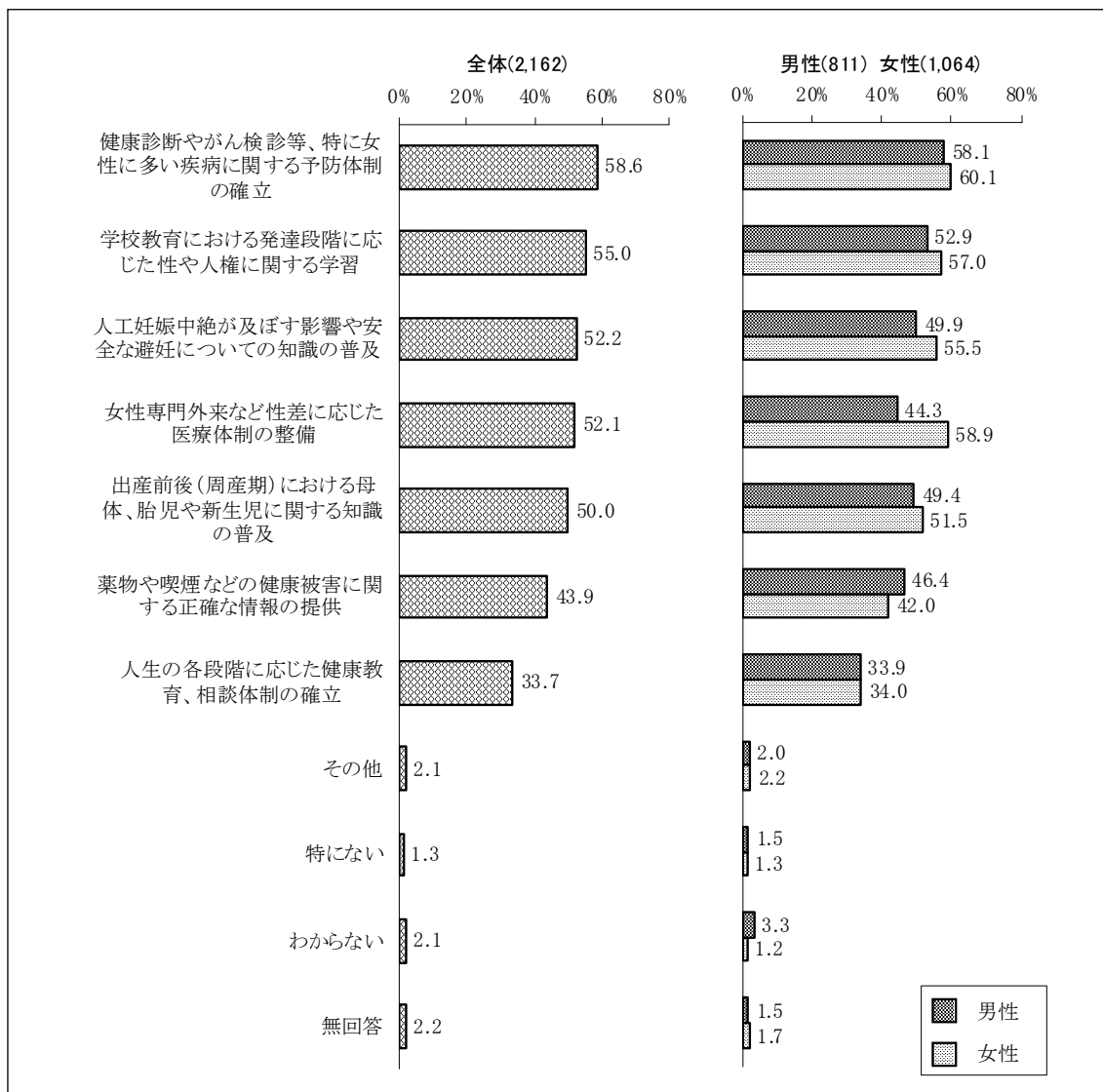
図表 37 メディアにおける性・暴力表現についての考え方◀埼玉県調査との比較▶

●埼玉県調査との比較

「そのような表現を望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない」「女性に対する犯罪を助長するおそれがある」については、本市調査が埼玉県調査を5ポイント以上上回っていますが、全体の回答の傾向に大きな違いはありません。

問5 女性の生涯を通じた健康を考える上で重要なこと

女性は、妊娠や出産をする可能性や女性特有の病気など、男性と異なる健康上の問題に直面することを、男女とも留意する必要があります。あなたは、女性の生涯を通じた健康を考える上で、どのようなことが重要だと思いますか。(〇はいくつでも)



図表 38 女性の生涯を通じた健康を考える上で重要なこと

○全体の傾向

女性の生涯を通じた健康を考える上で重要なこととして、「健康診断やがん検診等、特に女性に多い疾病に関する予防体制の確立」(58.6%)、「学校教育における発達段階に応じた性や人権に関する学習」(55.0%)、「人工妊娠中絶が及ぼす影響や安全な避妊についての知識の普及」(52.2%)、「女性専門外来など性差に応じた医療体制の整備」(52.1%)、「出産前後(周産期)における母体、胎児や新生児に関する知識の普及」(50.0%)がいずれも5割以上となっています。

○男女別の傾向

「薬物や喫煙などの健康被害に関する正確な情報の提供」を除くすべての項目で女性が男性を上回っており、特に「女性専門外来など性差に応じた医療体制の整備」（男性：44.3%、女性：58.9%）は、女性が男性を15ポイント程度上回っています。

	全体	響や安全な避妊についての知識の普及	人工妊娠中絶が及ぼす影響	出産前後（周産期）における母体、胎児や新生児に関する知識の普及	学校教育における発達段階に応じた性や人権に関する学習	人生の各段階に応じた健康教育、相談体制の確立	健康診断やがん検診等、特に女性に多い疾病に関する予防体制の確立	女性専門外来など性差に応じた医療体制の整備	薬物や喫煙などの健康被害に関する正確な情報の提供	その他	特になし	わからない	無回答
全体	2,162 100.0	1,129 52.2	1,080 50.0	1,189 55.0	729 33.7	1,266 58.6	1,127 52.1	950 43.9	45 2.1	29 1.3	45 2.1	47 2.2	
男女・年代別	男性／20代	86 100.0	42 48.8	52 60.5	35 40.7	25 29.1	47 54.7	36 41.9	44 51.2	2 2.3	-	6 7.0	1 1.2
	30代	140 100.0	73 52.1	76 54.3	69 49.3	46 32.9	84 60.0	64 45.7	61 43.6	6 4.3	-	5 3.6	1 0.7
	40代	155 100.0	76 49.0	76 49.0	76 49.0	50 32.3	98 63.2	70 45.2	72 46.5	2 1.3	4 2.6	3 1.9	1 0.6
	50代	150 100.0	70 46.7	76 50.7	74 49.3	58 38.7	78 52.0	63 42.0	60 40.0	1 0.7	2 1.3	6 4.0	1 0.7
	60代	176 100.0	88 50.0	83 47.2	105 59.7	63 35.8	92 52.3	84 47.7	86 48.9	4 2.3	5 2.8	2 1.1	5 2.8
	70代以上	104 100.0	56 53.8	38 36.5	70 67.3	33 31.7	72 69.2	42 40.4	53 51.0	1 1.0	1 1.0	5 4.8	3 2.9
	女性／20代	104 100.0	72 69.2	71 68.3	49 47.1	33 31.7	69 66.3	70 67.3	47 45.2	2 1.9	1 1.0	-	-
	30代	213 100.0	105 49.3	134 62.9	114 53.5	71 33.3	138 64.8	129 60.6	77 36.2	8 3.8	4 1.9	-	-
	40代	230 100.0	128 55.7	111 48.3	128 55.7	82 35.7	146 63.5	151 65.7	94 40.9	5 2.2	2 0.9	4 1.7	4 1.7
	50代	191 100.0	106 55.5	79 41.4	112 58.6	67 35.1	112 58.6	108 56.5	86 45.0	4 2.1	3 1.6	2 1.0	5 2.6
	60代	224 100.0	126 56.3	108 48.2	143 63.8	65 29.0	120 53.6	129 57.6	97 43.3	4 1.8	4 1.8	3 1.3	4 1.8
	70代以上	98 100.0	50 51.0	43 43.9	56 57.1	42 42.9	51 52.0	38 38.8	43 43.9	-	-	4 4.1	5 5.1
	無回答	291 100.0	137 47.1	133 45.7	158 54.3	94 32.3	159 54.6	143 49.1	130 44.7	6 2.1	3 1.0	5 1.7	17 5.8

図表 39 女性の生涯を通じた健康を考える上で重要なこと（男女・年代別）

○男女・年代別の傾向

女性の20代は「人工妊娠中絶が及ぼす影響や安全な避妊についての知識の普及」（69.2%）、「出産前後（周産期）における母体、胎児や新生児に関する知識の普及」（68.3%）、「女性専門外来など性差に応じた医療体制の整備」（67.3%）、「健康診断やがん検診等、特に女性に多い疾病に関する予防体制の確立」（66.3%）がいずれも7割弱であり、意識が高いことがわかります。

「学校教育における発達段階に応じた性や人権に関する学習」については、男性ではおおむね年代が上がるとともに増加する傾向にあり、70代以上では67.3%となっています。